

聖徒の道

2
1991



末日聖徒
イエス・キリスト
教会

聖徒の道

1991年2月号



表紙——

荒涼とした不毛の地。ここに住む民は、羊ややぎの世話をしながら遊牧する。(「この聖地にて」p.10参照)ベツレヘムとヨルダン川(フロイド・ホルドマン撮影), タボル山(ドン・O・ソープ撮影), 園の墓(ラマー・C・ベレット撮影)

一般

- 大管長会メッセージ——「あなたはむさぼってはならない」
第一副管長ゴードン・B・ヒンクレー 2
- 私を追いかけてきた機関誌 ケネス・S・ロジャーソン 9
- この聖地にて ラッセル・M・ネルソン長老10
- 敵国の兵士の証 W・ハーバート・クロップファー25
- 福音の味 モンティ・J・ブラフ長老46
- 「もし汝の姉妹汝に書を与える時は」 ナイラ・W・シュッド48

青少年

- 質疑応答——教会を攻撃されたときの対応20
- 人の良い点を見つける グレン・ヨルゲンソン24
- シャルトルのふたつの塔 リチャード・M・ロムニー34
- 従順の代価 ステファン・K・クリスチャンセン42

定期特別記事

- 読者からの便り 1
- 家族への手引き——安息日を家族で聖く守るために28
- 家庭訪問メッセージ——中央扶助協会会長会からのあいさつ40

こども

- 友だちになろう ローレンス・カミンズ 2
- 聖霊——助け主 ジェームズ・E・ファウスト長老 5
- 分かち合いの時間——イエス様が組しきされた教会
ローレル・ロールフィング 6
- 空いている席はない リサ・ダングレン 8
- おもちゃばこ——しょう書物競走
旧約聖書の女性 ジャネット・ピーターソン12
- モルモン経物語——約そくの地へ向かうジェレドの民13

聖徒の道

1991年2月号

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊—イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ルウェー語。隔月刊—インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊—アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレ、トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット
顧問：レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、フランシス・M・ギボンズ、ジェフリー・R・ホランド
編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部業務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン

編集主幹：ブライアン・K・ケリー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集主幹補佐：アン・レムリン
編集主幹補佐/こどものページ：ティエーン・ウオーカー
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・パン・カンペン
デザイナー：ジェリー・クック
制作：シドニー・N・マクドナルド、レジナルド・J・クリステンセン、ジェーン・アン・ケンプ、ティモシー・シェパード

配送部長：ジョイス・ハンセン
聖徒の道 1991年2月号第35巻第2号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351
印刷所 株式会社 精興社/クロスロード
定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円、大会号 350円

International Magazine
ITEM 91982 300
Printed in Tokyo, Japan.
Copyright © 1991 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351(代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

読者からの便り

「計り知れないほど貴重です」

成長の助け

新しくなった「リアホナ」(スペイン語版)の装丁に賛辞を送りたいと思います。毎月、掲載記事を楽しく読ませていただいています。アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイのための家族の歴史センターでディレクターをしている私たちにとって、この機関誌を通して受けている助けは、計り知れないほど貴重です。

神権指導者やワード部、支部の会員を対象に行なった発表の中で、「子供たちの心をその父に向けさせる」ことの重要性をよく知ってもらうために、「リアホナ」に掲載された記事を用いました。主の助けと、このすばらしい機関誌のおかげで、私たちの伝道は成功しています。

アルゼンチン、ブエノスアイレス
ルーフィーノ・ロドリゲス長老、ロドリゲス姉妹

「非常に意義深いもの」

1990年4月号に掲載された記事「ごめんなさい、バーサ」は、私にとって非常に意義深いものでした。それは多分私の中に、バーサのようなところがあるからだと思います。私の所属していた小さな町のワード部の青少年は、いくつもの排他的なグループを作っていて、私はいつも仲間外れでした。めったにパーティーや活動に誘われることはなく、高校時代になってもずっと、私はひとりでした。

現在私は独身成人ですが、昔と大して変わらず、恥ずかしがり屋で、自意識過剰の傷つきやすいタイプの人間です。深く傷ついたこともあります。この記事によって、青少年の兄弟姉妹がほかの人々に手を差し伸べ、活動の仲間に入れることの大切さを知ってもらえればと思います。自分の態度によって傷ついているかもしれない人に、どうか目を向けてほしいのです。

匿名希望

「リアホナ」(スペイン語版)に感謝しています。福音の中で成長し、天父をさらによく知るための助けとなります。

また私がステーク部宣教師、ステーク部伝道部長会書記、長老定員会教師としての召しを果たすとき、この機関誌はとても役立っています。
ウルグアイ、モンテビデオ
ヘラルド・ガルシア

祝福

「リアホナ」(ポルトガル語版)編集者の価値ある大きな働きに賛辞の言葉を贈りたいと思います。

おかげで私たちの家族は、イエス・キリストの永遠の祝福を理解するのに役立つ記事を分かち合うという、特別なひとときをいつも過ごしています。

「リアホナ」を読むことは、私たちにとって祝福です。

ブラジル、リオデジャネイロ
ニルトン・アントニオ・P・S・デ・ソーザ、ニルトン・アレクサンドレ・P・デ・ソーザ、ピアンカ・クリステイアーネ・P・デ・ソーザ

編集室から

世界中の愛読者の皆さんにとっても感謝しています。皆さんの手紙、記事、物語などをお寄せください。(投稿の際は、住所、氏名、ステーク部/地方部/伝道部、ワード部/支部名を明記してください)今月号より「読者からの便り」のあて先を下記のとおり変更いたします。お便りは日本語でも結構です。今後もさらに多くの皆様からのお便りをお待ちしています。

Comment, Seitonomichi,
50 East North Temple Street,
Salt Lake City, Utah 84150
U.S.A.



「あなたは むさぼってはならない」

第一副管長

ゴードン・B・ヒンクレー

ひとつの罠^{わな}について話したいと思います。その罠は喜びと幸福を得ようとする私たちの努力を台無しにしてしまうものです。それは狡猾^{こうかつ}で邪悪な力であり、「今持っているだけでは足りない。もっと必要だ」とささやきかけてきます。

主はご自身の指をもって石の板に十戒を記されたときに、最後の10番目の戒めとして次のように言われました。「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。」(出エジプト20:17)

その時以来この世には数多く変転がありました。人間の本質は変わっていません。私はこれまで、若いうちから金持ちになる、高価な車を買う、最高の服を身に着ける、街にマンションを持つ、あるいは郊外に一戸建ての家を持つ、などという決心をしている人が、今の時代にも数多くいるのを世界中で目にしてきました。彼らにとってはそれが人生の大目的なのです。またある人々にとっては、倫理や道徳などの観点から見ても、目標達成の手段はそれほど重要な意味を持っていません。彼らはほかの人が持っているものに貪欲^{どんよく}な視線を注ぎ、利己心と貪欲さをもって所有欲を満たしていくのです。

人はだれでも成功したいと思うものです。私もすべての人に成功してほしいと思います。しかし私たちは、何をもちて成功の尺度とするのかに注意しなければなりません。毎日の新聞を読むだけでも、激しい欲望や衝動に駆られて不幸な事態や深刻な失敗に陥った人々の例を数多く見ることができます。かつては高級な乗用車を乗り回し、

予言者の勧告に従う人は、心の平安と安らかな家庭を得て、周囲の人々から尊ばれます。

豪邸に住んでいたのに、今では牢獄の中でしおたれている人もいます。彼らが並外れた能力を持った人々であることは確かです。すばらしい知性を持っていながら、その才気のゆえに罠に落ち込んでしまったのです。

主が今私たちに語りかけ、十戒の最後の戒めを授けられるとしたら、こう言われるのではないのでしょうか。「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。またその人の社会的地位、車をむさぼってはならない。隣人のいかなるものをもむさぼってはならない。」

ここ数年、有能な男女の物語が、様々な新聞の紙上ににぎわしてきました。彼らは初めは高潔さと正直さをもって働き、ほどほどに生活を楽しんでいましたが、それだけでは満足できなくなりました。そして自分の王国を広げたいと熱望するあまり、人々に甘い投資の話を持ちかけました。そして多くの場合この投資家たちも、貪欲がもたらす同様の苦汁を味わわされたのです。彼らはわずかな投資で大儲けができるといううまい話に心を奪われてしまったのです。そして、自分の尾を追いかける犬のように、挫折の日がくるまで事業を進めていったのです。投資をそそのかした側も投資した側も、共に夢破れ、かつての親密な関係は一転し、相手への非難と汚い言葉の応酬、刑事訴訟、民事訴訟という結果になりはてしてしまいました。

パウロはテモテへあてたすばらしい手紙の中で次のように書いています。「金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばって金銭を求めたため、信仰から迷い出て、多くの苦痛をもって自分自身を刺しとおした。」(Iテモテ6:10)この偉大な警告の真实性を理解するのは、そうむずかしいことはありません。私はこれまで、激しい物欲をもってひとたび富を得た人々について話してきましたが、彼らの中には今になって自分が「多くの苦痛をもって……刺しとお」されたことに気づいている人々があります。

もちろん私たちは日々の糧を得ていかなければなりません。主はアダムに、生涯顔に汗してパンを得なければならぬと命じられました。特に結婚を控え、妻とやがて生まれてくる子供を扶養する責任を引き受けられる若

い男性にとって、自立への備えをすることは非常に大切です。

十分に持っているというような人はだれもいません。少なくとも私たちはそう考えています。今の経済的状況がどうであれ、私たちはそれをさらに向上させたいと考えます。極端に走らない限り、それは悪いことではありません。しかし、貪欲さが顔をもたげ、人の持ち物を欲しがるようになると、苦しみが始まります。そして、それはやがてはなはだしい苦痛へ変わっていくこともあるのです。

「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。」家はだれにでも必要なものです。冬に体を暖め、夏にもある程度の快適さを与えてくれる家が必要です。家を求めるのは悪いことではありません。むしろ大切なことです。しかしある人々のように、度を過ぎると愚かさが自分を滅ぼす罠となる恐れもあります。

隣人が身に着けている衣服や宝石などをむさぼり求めてはいけません。驚くべきことに、流行の奴隷になっている人々もいます。流行への願望も強い所有欲となり、異常に肥大化していくことがあります。そして個性を失わせ、財政を破綻させてしまうことさえあります。多くの人が自分の個性を伸ばすよりも、自分をほかの人と同じように見せたいがり、ほかの人と同じ環境の中で生活したいと考えているかのように思えます。

あなたは隣人の自動車をむさぼってははいけません。現代の自動車はすばらしい機械です。所によってはほとんど生活必需品になっていることもあります。しかし途方もない値段の自動車をかうために、多額の借金をする人を見ると、人々の価値観は一体どうなってしまったのだろうかと考えさせられます。人々は自分の欲望を満たすために借金をしますが、高い利子の支払いに汲々とし、それを完済するために働く奴隷のようになっています。私の言っていることを誤解しないでいただきたいと思えます。繰り返しますが、人生に楽しみを与えるものをある程度所有することは悪いことではありません。しかし、願望が貪欲さへ姿を変えないように望んでいます。貪欲さは悪性の、そしてしつこい病気です。



私たちは日々の糧を得ていかなければなりません。主はアダムに、生涯顔に汗してパンを得なければならないと命じられました。

1831年に主はオハイオの聖徒たちに次のように言われました。これは現代の私たちにも当てはまるものです。「今やわれ主は、シオンに住める民を悦ばず。そは、怠る者その中にあり、彼らの子らもまた今や次第に悪事に増長し、永遠の富を熱心に求めずしてその眼は貪欲を以て充さるればなり。」(教義と聖約68:31)

私は皆さんに、儉約と勤勉の徳を養うようお勧めします。国家を強くするのは国民の労働とつましい生活です。家族を自立させるのも労働と儉約です。負債は恐ろしい結果を招くことがあります。借りるのはいとも簡単ですが、返すのは非常にむずかしいものです。借金する時は別に感じないかもしれませんが、それはやがて大変な重荷になることがあります。一般的に破産は借金のもたらす手ひどい結果なのです。私は1938年にJ・ルーベン・クラーク Jr. 副管長がタバナクルの壇上から利子について話すのを聞いたことがあります。彼は次のように言いました。

「金利は決して眠ることも、病気になることも、死ぬこともない。金利は入院しない。また金利は日曜日にも休日にも働き続け、決して休まない。訪問も旅行もせず、娯楽にも興じない。退職せず、解雇されず、絶え間なく働き続ける。不作もかんばつもなく、税を払うこともない。食物を買わず、衣服を着ず、家も家庭も持たず、そのための修理も買い換えも、屋根のふき換えも、配管工事、ペンキ塗りもしない。金利は生活費を使わない。結婚も、誕生も、死もなく、愛情も、同情も持たない。それは花こう岩の崖のように厳しく無情である。ひとたび借金をすると、金利は昼夜の別なくあなたに伴い、あなたはそれを避けることも、逃れることも、また忘れることもできない。それは懇願にも、要求にも、命令にも応じない。そして、あなたが邪魔したり、逆らったり、要求に応じないときには、いつでもあなたを踏みつぶす。」(「大会報告」1938年4月, pp.102-103)

教会のすべての家族がこの言葉を紙に書き写して、借金の怖さを忘れないために、ときどき読み返すよう勧めたいと思います。

1829年にマーテン・ハリスはモルモン経初版印刷のた

めの債務を快く引き受けました。しかし1年後に彼に授けた啓示の中で主はこう言われました。「印刷業者に借りたる汝の負債を支払いて束縛より免れよ。」(教義と聖約19:35)

ここでとりあえず申し添えておきますが、ある場合には借金をすることも必要です。学生の中には学業を終えるためにお金を借りる必要がある人もいるでしょう。しかし借りたならば、必ず返すようにしてください。それも速かに返すようにしてください。ほかに楽しみたいことがあっても、それは後回しにする必要があります。また多くの人は家を購入するためにお金を借りなければならないことでしょう。事業を行なう場合にも、当然のことながら、慎重な借金は必要なことであり、適切なことです。しかしよく知恵を用いてください。返済能力以上の借金をしてはいけません。

ヒーバー・J・グラント大管長は次のように話したことがあります。「人の心や家族の中に平安と満足をもたらすものがひとつあるとすれば、それは収入の範囲内で生活することである。人を虐げ、打ちのめし、落胆させるものがひとつあるとすれば、それは手に負えない借金や債務を背負うことである。」(「扶助協会誌」1932年5月, p.302)

それは富につきものの苦痛であり、人の心を腐らせ、破壊するものです。主は次のように言われました。「富を求めずして智慧を求めよ。さらば見よ、神の奥義は開かれ、それより汝ら富める者とせらるべし。見よ、永遠の生命を有つ者は富めるなり。」(教義と聖約6:7)

私たちは日々の生活の中で、主の次の約束を忘れないようにしましょう。「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。」(マタイ6:33)私はこの神聖な約束が真実であることを証します。

もう一度10番目の戒めに戻ってみましょう。「あなたは……隣人の妻……をむさぼってはならない。」(出エジプト20:17)この勧告と「あなたは姦淫してはならない」(出エジプト20:14)という戒めが説いているのは、道徳と貞節の問題以外の何ものでもありません。結婚できる



自分が選んだ相手に対して、誠実さと忠節を尽きなさい。その人は、この世と永遠の世にわたって、あなたの最も尊い存在となるのです。

状況にある若い人たちに望むのは、結婚をあまり遅らせることがないようにということです。私は女性よりも、この問題について積極的に動くべき責任と特権を有する男性に対して特に強く話したいと思います。

軽薄な態度でむやみにデートを繰り返しているようではいけません。愛し、尊敬できるふさわしい相手を求め、そして決心しなさい。昔から教会の指導者が教えてきた原則に照らして、結婚と家庭について考えるようにしてください。

そして結婚した後は、自分が選んだ相手に対して、誠実さと忠節を尽くしなさい。その人は、この世と永遠の世にわたって、あなたの最も尊い存在になります。そして、その人はあなたの内にある最高のものを受けるに値する人なのです。兄弟たちに申しあげます。あなたの奥さんをファーストレディー、女王とし、最大の関心を向けてください。

互いに夫婦としてふさわしい生活をしてください。また相手に恥辱を与えたり、なすべからざることをして悔やむようなことのないようにしてください。結婚前は清い生活をし、結婚後もいつまでも誠実さを守り続けてください。世の中の離婚率の高さには目に余るものがあります。しかし教会内の離婚率も、残念なことにかかりの数字を示しています。私はここ何年もの間、聖約を破り、神聖な責任から道を踏み外した人々の問題に毎週のようにかかわってきました。その中で目にしてきた悲劇的な結末は、胸の張り裂けるような悲しみと涙、踏みにじられた約束、妻子の深い嘆きでした。

多くの場合、これらの悲劇は利己心と自己中心癖に原因があります。このような罪悪は、恥ずべきものであると同時に、人の心を傷つけ、荒廃させるものです。

永遠の神聖な誓約を交わしたばかりの美しい花嫁と花婿の姿ほどすばらしいものはありません。その一方、私は不道德という暗い影ほど悲しむべきものをほかに知りません。その影は、結婚生活の中にも入り込み、相手への非難、苦悩、そして多くの場合、離婚、孤独、後悔をもたらすことがあります。

「あなたは姦淫してはならない。」そして私通、あるいは

それに類することも一切してはなりません。そして「あなたは隣人の妻をむさぼってはならない。」またほかのいかなる人をもむさぼってははいけません。

結婚式の日、人生で最も大切な日となすべきものです。すべての人が汚れなく幸福な気持ちで、その日を迎えるようにと望んでいます。そしてひとたび神の聖なる神権の権能によって永遠の結婚の誓約を交わしたならば、決してほかの人に目を向けるようなことがあってはなりません。互いに忠節と誠実を尽くし、相手が必要としていることに心からの関心を向けてください。

主は「あなたはむさぼってはならない」と的を射た戒めを私たちに授けられました。利己心によって人と人との関係を台無しにするようなことをしてはなりません。貪欲さによって幸福な生活を崩すようなことがあってはなりません。必要のないもの、また誠実さや高潔さを犠牲にしなれば得られないものを貪欲に求めて、自分を破滅させ、絶望の淵に陥るようなことのないようにしてください。

主はこれらの問題について明確に語っておられます。代々の予言者もそれを強調してきました。この勧告に従う人々は、心の平安と安らかな家庭を得て、周囲の人々から尊ばれることでしょう。□

ホームティーチャーへの提案

1. 主は、家、妻、社会的地位、自動車など、いかなるものであっても、隣人のものをむさぼってはならないと教えておられる。
2. 主は私たちに、勤勉と節約の徳を実行し、主や配偶者と交わした誓約を守るようにと教えておられる。
3. 負債は恐ろしい結果を招くことがある。借りるのはいともたやすいが、返すのは非常にむずかしい。
4. ヒンクレー副管長は、主の教えに従う人にはどのような祝福があると言っていますか。(心の平安と安らかな家庭、人々の敬意)

私を追いかけてきた 機関誌

ケネス・S・ロジャーソン

コロンビアの若い女性、ルイーサ・フェルナンダ・エスピノーサ・サチカは、職場の銀行の同僚である若い男性に誘われ、教会の集会に来ました。

しかし、コロンビアの首都ボコタにある小さいワード部は彼女にとって特に魅力あるものではありませんでした。教会の会員は良い人たちだったのですが、集会が好きではなかったのです。「第一長すぎるし、私ぐらいの年の人にとっては、おもしろいことなんて何もなさそうだわ」と思いました。

扶助協会で、教師はスペイン語版の教会の機関誌「リアホナ」の1987年6月号を使いました。表紙は会堂で教えておられる救い主の絵でした。その絵の中で救い主の周りが光り輝いていたのがルイーサの注意を引きました。扶助協会が終わると、もうそれ以上そこにいたくなかったので、教会堂を出ましたが、あの機関誌は欲しいと思いました。

何日かたって、ルイーサは、ボコタで込み合ったバスに乗りました。降りようとした運転席の前にこの前見たのと同じ「リアホナ」があるのに気がつきましたが、ただの偶然だと思いました。次の日、買い物をしていると、カウンターの裏にまた同じ機関誌があるのを見つけました。単なる偶然だろうかと思いはじめました。その機関誌について店員に聞いてみたかったのですが、そ

の勇気がありませんでした。

その週末、ルイーサが銀行で働いていると、あの機関誌を手にした男性が窓口に近づいてきました。もうこうなると、その機関誌を手に入れる方法を尋ねないわけにはいきませんでした。「その機関誌はどういうものなのでしょう。私を追いかけて回しているようなんです」とルイーサは話しました。その男性は、ほほえんで、それをくれました。

その機関誌を家に持ち帰ったルイーサは、隅から隅まで読みました。エズラ・タフト・ベンソン大管長による大管長会のメッセージは「イエスの証をなすに雄々しくあれ」というもので、ジョセフ・スミスと最初の示現について書かれていました。読めば読むほど彼女の関心は強くなってきました。

宣教師に会いたいと、ルイーサは教会員の友達に話しました。そして彼女を教えた宣教師のひとりダグ・フルサム長老の言葉によると、ルイーサは最初のレッスンが終わる前に、ジョセフ・

スミスの話が真実であるという彼女自身の証を宣教師たちに述べたということです。ルイーサは熱心に残りのレッスンを聞き、間もなくバプテスマを受けました。

フルサム長老はこのように話しています。「主はもしだれかにバプテスマを受けさせたいとお望みになると、その方法を見いだされます。教会の機関誌にその人を追い回させるなどということさえなさるのですね。」□



詩多蜜の心への考式
對関誌



PHOTOGRAPHY BY DON THORPE

この聖地にて

十二使徒定員会会員
ラッセル・M・ネルソン



主はそのゆだねられた使命を果たすに当たって、この豊かな地球上のいかなる場所でも、み業を果たすための舞台として選ぶことができたはずです。緑豊かで風光明媚な海の島々を選ぶこともできました。スイスやスカンジナビアの美しい風景を舞台にすることも、アフリカやオーストラリアの地を選んで、そこを歩むこともできたはずです。

しかし、主がその舞台として選ばれたのは、乾燥した荒涼たる地、遊牧民の住む地でした。この遊牧民は天幕の中で生活し、羊ややぎの世話をしながら居を定めずに移動を続ける民でした。主は、こうした舞台背景を十分に生かして、あるときには地理上の視覚教材として教え導くために、また別のときには予言のみ言葉を成就させるためにお使いになったのです。

ベツレヘムでの誕生

主が誕生の地として選ばれた場所は、エルサレム近郊のベツレヘムでした。では、なぜベツレヘムだったのでしょうか。ヘブライ語で「パンの家」という意味を表わす「ベツレヘム」という地名の中に、何か象徴的な意味がひそんでいるのでしょうか。大いなる主は、ご自分のことを指して「命のパン」と言われました。(ヨハネ6：



「イエスの誕生」カール・ヘンリック・ブロック画。デンマークのフレデリックスボル城付属チャペル蔵。フレデリックスボル博物館の許可により転載。



イエスがヨルダン川のどの地点で
バプテスマを受けたのかという点に関してはわからないが、
イエスが「だれでも、水と霊とから生れなければ、
神の国にはいることはできない」(ヨハネ3:5)
と言われたことは確かである。

48参照)それを考えると、「命のパン」である主が「パンの家」でお生まれになったということは、いかにもふさわしいことではないでしょうか。

しかし、それではなぜ動物に囲まれてお生まれになったのでしょうか。ヨハネから「神の小羊」(ヨハネ1:29)と呼ばれた主は、^{すぎこし}過越の祭の最中に動物に囲まれてお生まれになりました。この時期は、ちょうど小羊を過越の祭のいけにえとして^{ささ}捧げるために、準備が行なわれている最中でした。

「よい羊飼」(ヨハネ10:14)と呼ばれる主の誕生に際して、その聖なる降臨を最初に告げられたのは羊飼いたちでした。(ルカ2:8-16参照)

主はかつてご自分のことを指して「輝く明けの明星」(黙示22:16)と言われましたが、その誕生の時には天に新しい星が現われました。(マタイ2:2; IIIニューファイ1:21参照)ベツレヘムの空高く明るく輝くその星は、祝福された主の誕生のまさにその時、その場に輝きわたるよう、この予言された出来事が起こるはるか昔に、天の軌道上に置かれたものだったので。

「世の光」(ヨハネ8:12)と呼ばれる主が降誕されたとき、その聖なる誕生のしるしとして、やみが払われました。(IIIニューファイ1:15, 19参照)主は、神の御子として、また処女である母の息子として、イザヤや(イザヤ7:14参照)ほかの予言者たち(Iニューファイ11:13-21; アルマ7:9-10参照)の予言のとおりにお生まれになったのです。

エジプトへの逃避行と少年時代

主の誕生の場所は、予言の成就のためにはできるだけエジプトに近い場所でなければなりません。「そこで、ヨセフは立って、夜の間に幼な子とその母とを連れてエジプトへ行っ……た。それは、主が預言者によって『エジプトからわが子呼び出した』と言われたこと



PAINTING BY HARRY ANDERSON

が、成就するためである。」(マタイ2:14-15)

しかし、主はエジプトに長くとどまられることはありませんでした。まだ幼いころに救い主はナザレの町へ移り住まれたからです。ある研究者たちの指摘の中で、私とその象徴的な意味に非常に興味をそそられていることがあります。それは、「ナザレ」という言葉が、ヘブライ語で「枝」という意味を持つ「ニーツァー」という語の派生語であるという指摘です。神の聖なる枝であるイエスは、「枝」という意味の名前の町で育てられたのです。さらにエレミヤは、主のみ言葉として次のように予言しています。「わたしはダビデの

ために一つの正しい枝を生じさせよう。彼は公平と正義を地に行う。」(エレミヤ33:15)

川

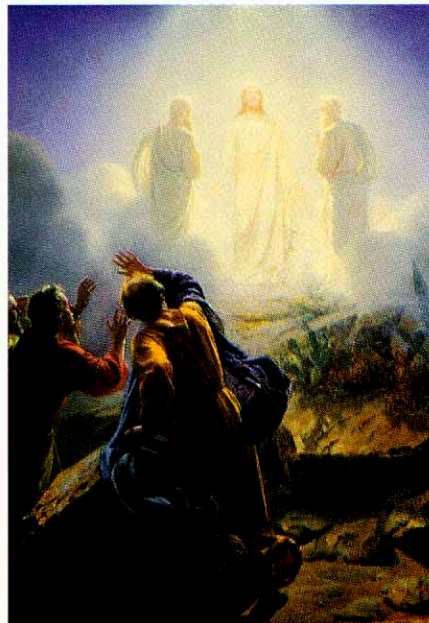
ヨルダン川は、イエスが「正しいことを成就する」(マタイ3:15。IIニューファイ31:5-6参照)ために、ヨハネからバプテスマをお受けになる場所として選ばれた川です。この聖なる儀式が、事実上、この地球上で最も低い場所を流れる川で行なわれたということに、意味があるのではないのでしょうか。ご自分が心からへりくだっていることを表わす象徴として、主はこの川に入り、そしてそこから上がってこられたわけですが、こうした謙遜さを象徴的に表わすうえで、この川以上にふさわしい川があったでしょうか。主は模範を通して、文字どおり、ご自分があらゆる物の下に身を落としたがゆえに(教義と聖約88:6参照)、あらゆる物の上に昇って行かれるのであるということをお教えされました。実際、主のバプテスマの様式に倣^{なら}ってバプテスマを受けることにより、私たちもその従順さと努力のいかんによっては、低いところから立ち上がって、私たちのために用意されているいと高きところまで昇って行くことができるのです。

私たちは、イエスがバプテスマを受けられた場所につ

ペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人が
救い主とモーセとエライジャから
神権の鍵を受ける舞台となった変貌の山は、
おそらくこのタボル山であったと思われる。



PHOTOGRAPHY BY FLOYD HOLDMAN



「主の変貌」カール・ヘンリック・ブロック画。デンマークのフレデリックスボル城付属チャペル蔵。フレデリックスボル博物館の許可により転載。

いて、その細かい地点までわかっているわけではありません。聖書にもモルモン経にも、主のバプテスマの場所はベタバラの近郊であったと書かれています。(ヨハネ 1：28では別の読みで「ベタニヤ」。I ニーファイ 10：9 参照)「ベタバラ」という語は、ヘブライ語で「渡りの場所」という意味です。キリストがヨルダン川のこの地点を選んでバプテスマをお受けになったのは、何百年も前に信仰深いイスラエルの民がヨシュアの指示の下に、この浅瀬を渡ったことを暗黙のうちに記念してのことだったのかもしれませんが。(ヨシュア 3 参照)また、バプテスマを受けるといことは、霊的な意味で神の王国へ渡って入ることの象徴であるということを示そうとして、この場所を選ばれたのかもしれませんが。

…山…

この地域の山もイエスによって清められました。主はこの山を、霊的教材として、また視覚教材として、ご自分に従う人々に教えるためにお使いになったのです。

ピリポ・カイザリヤで弟子たちと共に過ごされてからほぼ1週間後に、イエスは「ペテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

ところが、彼らの目の前でイエスの姿が変り、……モ



ゲツセマネの園に昔からある
このオリーブの木の実が、
石うすの重みで押しつぶされたと同様に、
救い主も世の罪の重さに
苦しみもだえられたのです。

ーセと〔エライジャ〕が彼らに現れ
……た。」(マタイ17：1-3)

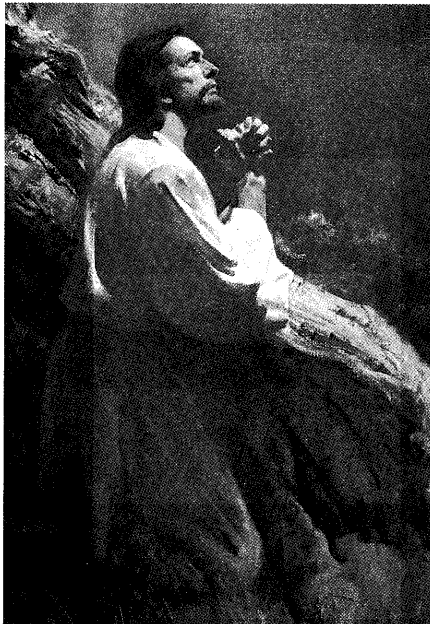
研究者の間でも、イエスが姿を変えられたこの山が、実際にヘルモン山であったのか、それともタボル山であったのか、意見は一致していません。しかしそれ以上に大切なことは、ここに現われたモーセとエライジャが、主の指示の下に、ペテロとヤコブとヨハネに神権かみの鍵を授けたということです。

さらに特筆すべきことは、このモーセとエライジャが、1836年4月3日にカートランド神殿で、それと同じ特別な鍵をジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリに授けたということです。カートランド神殿が献堂されてちょうど1週間後のことでした。(教義と聖約110：11-16参照)

幾世紀にもわたって信仰深いユダヤ人たちは、過越の時にエライジャが戻ってくることを待ち望んでいます。実に興味深いことに、1836年4月3日という日は、復活祭の日曜日と過越の祭の初日が重なる非常に珍しい日に当たっていました。エライジャは待ち望まれていたとおり、過越の祭に、そして復活祭の日に、地上に戻り、ただひとりエライジャにのみ託されていた結び固めの権能の鍵を回復したのでした。

この同じ鍵は、完全な永遠のきずなを完成させるために、現在でも主の聖なる神殿の中で使われています。私たちは、正しく権能を授けられた主の代理人によって執行されるこうした儀式が、主に認められ喜ばれるものであることを知っています。それは、主が「あなたがたが地上でつなぐことは、天でも皆つなぐがれ、あなたがたが地上で解くことは、天でもみな解かれるであろう」(マタイ18：18)と言われたからにはほかなりません。こうした永遠の儀式は聖なる神殿の中で執行されていますが、神殿はときに「主の家の山」と呼ばれることがあります。(イザヤ2：2。IIニューファイ12：2参照)

昔、山は現在の神殿と同じような目的で使用されることがよくありました。たとえば、モーセはシナイ山に連



PAINTING BY HARRY ANDERSON

れて行かれ、そこで主から教えを受けました。

山に登るのはたやすいことではありません。ですから、その当時も、今も、主は弟子たちに、努力することと従順であることの大切さを教えるために、山に登るようにと言われました。主は象徴的な意味でも、そしておそらくは文字どおりの意味でも、皆さんにも同じことを求めておられるのです。

現在のイスラエルには、昔と同様、もうひとつ重要な山があります。それはモリヤの山です。現在、この山には人の手になる建造物や回教寺院が建てられています。しかし、それでもこの山が、アブラハムとイサク

による従順と信仰の物語を語り継ぐ聖なる地であることには変わりありません。この親子は神の求めに応じて、ベエルシバからモリヤの山まで3日間もの旅をしました。(創世22参照)「モリヤ」という語には、ヘブライ語で「エホバが見たもう、あるいは、エホバが選びたもう」という意味があります。

エルサレムの最初の聖なる神殿は、モリヤの山上に建てられました。

地域に密着した知識

当時、死者を葬るためには一般的に地下墓地が使われていました。イエスは愛する友ラザロが亡くなったとき、その場所には居合わせなかったのですが、彼が亡くなったことはよくご存じでした。(ヨハネ11参照)聖典の記録によれば、ラザロが亡くなってから4日後にイエスがベタニヤに来られたとあります。しかし、日がたちすぎていると思ったラザロの姉妹マルタは、こう叫びました。「主よ、もう臭くなっております。」(ヨハネ11：39)

すると、イエスは「大声で『ラザロよ、出てきなさい』と呼ばわれた。

すると、死人は手足を布でまかれ、顔も顔おおいで包まれたまま、出てきた。イエスは人々に言われた、『彼を

ほどいてやって、帰らせなさい。」

……多くの……人たちは、イエスを信じた。」(ヨハネ 11:43-45)

ラザロが亡くなってから、墓から出てくるように言われて生きて出てくるまで、4日の期間があったわけですが、これには非常に重要な意味があります。その重要な点のひとつは、ユダヤ人の言い伝えに、霊が最終的に死者の肉体から出て行くためには4日かかり、その後腐敗が始まる、という説があることです。主は、ご自分には死に打ち勝つすべての権能があり、また生命をも治めることができるということをお示しになるために、何もかもご存じのうえで、4日が経過するのを待っておられました。そのうえでラザロを死から起こされたのです。

贖いの象徴

オリーブの木は、聖地では特別な意味を持つ木です。オリーブの枝は、世界中どこでも平和の象徴と考えられています。この木は食用にも、明かり用にも使われ、また薪としても、建築材としても、軟膏としても、薬用としても利用されています。当時も今も、イスラエルの生活とは切り離せない関係にあります。この木は落葉樹とは違って、1年中、緑の葉を絶やすことがありません。ひとたび切り倒されても、まるで永遠の生命を象徴するかのよう、その根からまた新しい命が芽生えてきます。

イエスは、贖いの第1段階を完成させるために、オリーブ山のふもとへ行かれました。その舞台となったのが、ゲツセマネの園です。「ゲツセマネ」という語は、ヘブライ語のふたつの語根、すなわち「押しつぶす」を意味する「ガス」という語と、「油」特にオリーブの油を意味する「シーメン」という語を合わせたものです。

この園では、オリーブの実を巨大な石うすの重みで押しつぶして、貴重な油を搾り取っていました。同じように、キリストもゲツセマネの園で、世の罪の重圧を全身に受け、苦しみもだえられたのです。キリストは、命の「油」とも言うべき血を、あらゆる毛の穴から流されたのです。(ルカ22:44; 教義と聖約19:18参照)

イエスという名には、独自の意義があります。ひとつは、「メシヤ」というもので、ヘブライ語で「油注がれた者」という意味です。もうひとつは、「キリスト」という

もので、ギリシャ語でやはり「油注がれた者」という意味です。現在でも、イエスの時代と同様に、病人に祝福を施す儀式には、聖別されたオリーブ油を注ぐ儀式が含まれています。ですから、今度、聖別された油が祝福を受ける人の頭上に注がれ、「私はあなたにこの聖別された油を注ぎます」という神聖な言葉が述べられる場に巡り合わせたら、ゲツセマネで行なわれた最初の聖別のために、どれほどの代価が支払われたかを、よく思い起こしてください。また、それがこれまで生を受けた人々、これから生を受ける人々に対して、どのような意味を持つのか、よく考えてみてください。苦しんでいる人々に癒しと慰めと祝福を与える、贖いの力について深く考えてみてください。そして、光をもたらず油を搾り取るためにオリーブの実が石うすで押しつぶされたと同様に、救い主も世の罪の重みを受けて苦しまれたことを思い起こしてください。贖い主は、あらゆる毛の穴から命の血を流されたのです。ですから、「試しに会うとき」(『部屋を出る前に』賛美歌78番)には、ゲツセマネのことを思い出してください。

主の贖いの第2段階は、十字架上で完成します。これに先立つこと数時間前、ピラトは神の小羊に十字架刑を言い渡しますが、この時はちょうど、近くで小羊を超越の犠牲として捧げるための準備が行なわれている最中でした。(ヨハネ19:13-14参照)

十字架の刑は、ゴルゴタ(ヘブライ語)ないしはカルバリ(ラテン語)と呼ばれる丘の上で執行されました。ともに、「されこうべ」という意味です。されこうべは死の象徴です。そのような場所で、贖いの犠牲は完成したのです。十字架の上で、世の救い主は、死に打ち勝ち、高く上げられました。これは、考えられる限り最高に意義深い出来事であり、主が死に打ち勝つ力を持っておられることが、はっきりと示されたのです。

父なる神は、ゴルゴタ(またはカルバリ)で御子イエスを捧げられましたが、ここはモリヤの山の北にある岩の露頭で、およそ2000年ほど昔、アブラハムがイサクをまさしく犠牲に捧げようとしたその場所でした。はるか昔に予見されたとおり、その同じ場所で救い主の贖いの犠牲が完成したのです。

しかし、もちろんそれで終わりではありませんでした。それは単なる新しい始まりに過ぎなかったのです。復活

「疑い深いトマス」カール・ヘンリック・ブロック画。
デンマーク、フレデリックスボル城付属チャペル
蔵。フレデリックスボル博物館の許可により転載。

という事実は、何ものにも勝って栄光に満ちた出来事です。使徒パウロは、墓の中で3日間過ごされたイエスが、「眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。……

アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである」(Iコリント15:20-22)と記録しています。

復活された主は、その弟子たちに次のような重要な責任を与えられました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ16:15)

「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28:19-20)

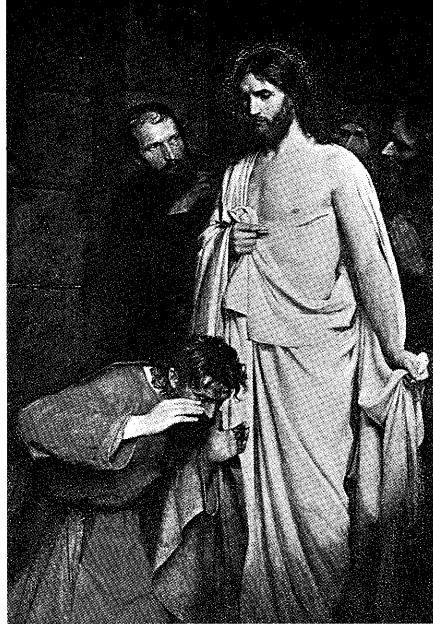
この責任に関しては、今なお私たち一人一人に義務が課せられています。主の真の弟子ならば、この神聖な責任を決してないがしろにすることはありません。

将...来

しかし、救い主のみ業は聖地だけに限られてはいません。主は、「わたしにはまた、この囲いにはいない他の羊がある。……彼らも、わたしの声に聞き従うであろう」(ヨハネ10:16)と言われました。

この「他の羊」を愛しておられればこそ、復活された主は、アメリカ大陸にその羊を訪ねられたのです。(IIIニーファイ15:21参照)主はそこで福音を教え、ご自身の教会を設立されました。そして、ご自分がその羊たちの間で行なわれた恵みと導きを施す業について、記録にとどめておくように責任を与えられました。

私たちがこの羊たちから受け継いだその貴重な記録が、モルモン経であり、この書物は実に明瞭に書かれた偉大



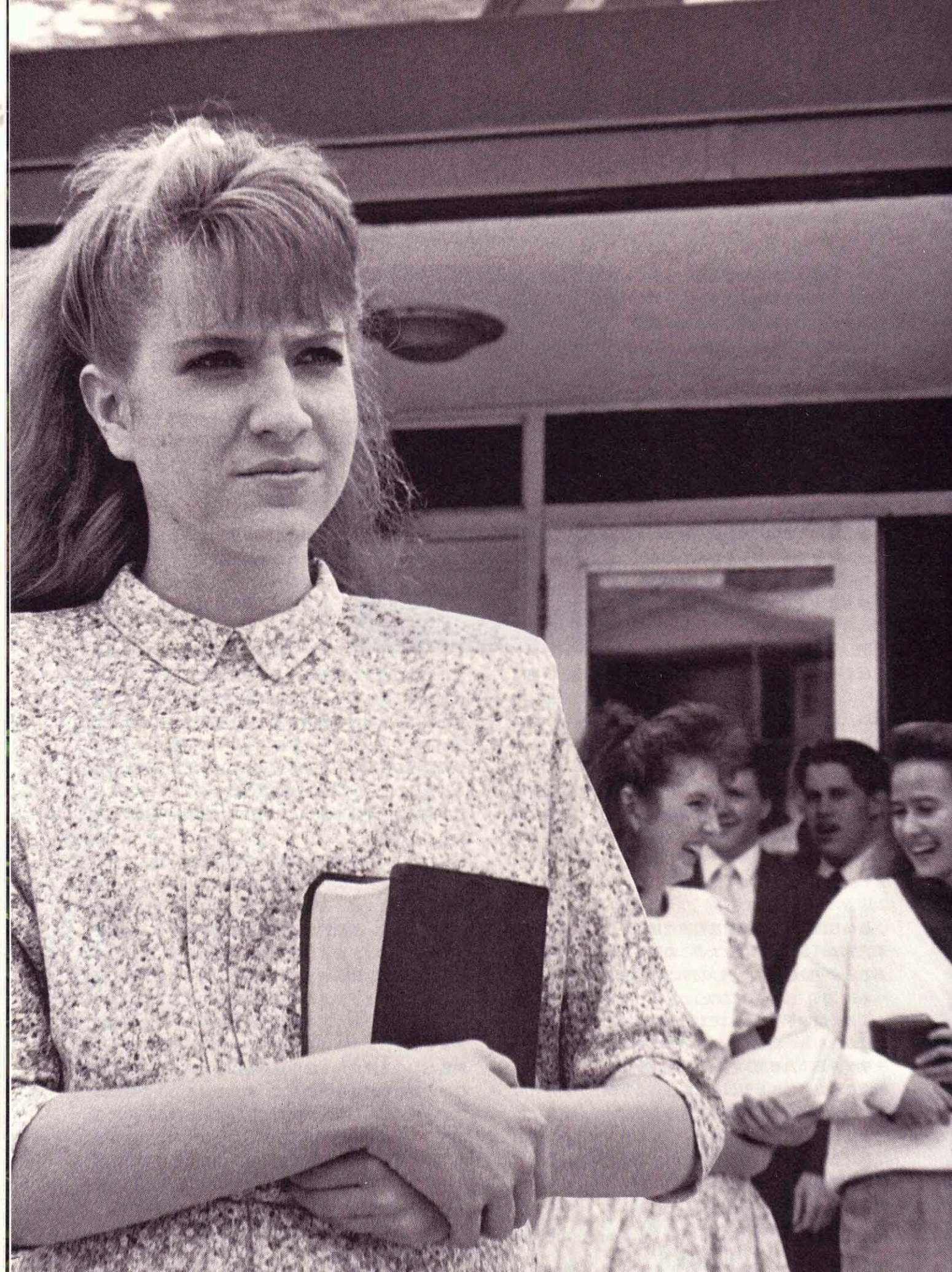
な聖典です。この記録は、伝道にきわめて大きな力を発揮する聖典であり、またイエス・キリストについてのもうひとつの証でもあります。私たちは、父なる神とその御子イエス・キリストが、1820年、ニューヨーク州北部の片田舎で、予言者ジョセフ・スミスにそのみ姿を現わされたことを証するものです。その日、その場所から、約束されていた万物更新が始まりました。私たちが現在携わっている偉大な末日のみ業が、待ちわび、涙を流している世の人々に祝福をもたらすために、主のご計画どおりに始められたのです。

しかし、最終的に主は、この地上におられる間そのみ業によって清め

られた地に戻って来られます。主は、勝利のうちに、エルサレムへ戻ってこられます。あらゆる毛の穴から流されたというその血を象徴する真紅の王衣を身にまとして、聖都エルサレムへ戻られるのです。この聖都をはじめとして世界の各地で、「主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る」(イザヤ40:5)こととなります。また、オリブ山には主が戻られて、「山は二つに裂け」(教義と聖約45:48)ます。

私たちには、その栄光に満ちた主の再臨のために、世の人々に備えをさせるという神聖な責任が与えられています。

願わくば、主がこの世におられる間にこの聖地で行なわれたみ業の、象徴的な意味を十分に認識することができますように。また、主の愛されたほかの羊に対するみ業についても、理解できますように。そして、万物の回復の時代に生きる私たちが、主の再臨のために世の人々を備えさせるという、ゆだねられた役割をいつも認識できますように。さらに、主の終わりのない生涯が、絶えず私たちの生涯に大きな影響を及ぼしていることを常に心にとどめておけますように。私たちはその主の僕なのです。最後に、私たちにゆだねられている数多くの大きな責任を果たすに当たって、私たちが主のみこころのままに、みずから進んで行動する力と強さを持つことができますよう、心から祈っています。



教会を攻撃されたときの 対応

私の学校には、教会を強く攻撃する生徒たちがいます。私たちがクリスチャンではないなど、いろいろひどいことを言います。どうしたらよいのでしょうか。

本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

救い主を愛し信じる者にとって、クリスチャンではないと言われるのは本当につらいことです。その上、教会や教会員の悪口を言われればなおさらです。でも、注意しないとあなたの傷ついた心は怒りに変わり、それは、人のどんな悪口よりもあなた自身を傷つけます。ですからまず最初に、自分が救い主のまことの弟子であることを再認識することです。そして、迫害に愛でこたえる強さを持てるように、いつも心の中で祈りましょう。

次に、彼らがなぜ教会を批判するのか理由がわかれば、助けになります。基本的な理由をいくつかあげてみましょう。

1. ただ、あなたの反応を見たいために、人から聞いたことを繰り返しているだけの人もいます。そういう人は、実際のところこう言っているのです。「あなたがたはクリスチャンではないと聞いたけど、またモルモンはこんなことをすると聞いたけど……。あなたはそれにどう答えるつもりですか。」

2. また、ある人たちは、私たち末日聖徒について熟知していると思ひ込んでいて、「あなたが何と言おう

と、私の定義によれば、あなたがたはクリスチャンではない」と決めつけてしまっています。

3. 残念ながら、ただ単にあなたに嫌がらせをするためにそんなことを言う人たちもいます。彼らは教義について心から関心があるわけではなく、どの宗教に対しても批判的なのかもしれません。末日聖徒としてのあなたの高い標準がよく知られているために、攻撃的になりがちなのです。人によっては、高い標準を持つ人は他人を見下す傾向があると感じて、反発する人もいます。たとえば、お酒を飲む人は、あなたが禁酒という標準を守っているだけで、あなたから非難されていると感じるかもしれません。

それでは、教会を理由もなく攻撃されたときどう対応すべきでしょうか。まず覚えておいてほしいことは、

言葉よりも行動こそ、何よりも雄弁にあなたの信じることを語ってくれるということです。つまり、あなたが正直で、言動に清く、怒るに遅く、争いを好まず、だれにでも親切であると皆が知っていれば、あなたの信じることはおのずからだれの目にも明らかになるのです。よく言われる次の言葉を覚えておいてください。「たとえ人があなたをクリスチャンであるという理由で罪に問おうとしても、問題は有罪とされるに十分な証拠があるかどうかである。」

第2に、議論をしないことです。議論は悪魔を呼び込むだけです。静かにこう尋ねてください。「なぜそのように言うのですか。」相手が真剣に尋ねたいという気持ちがあるようであれば、私たちがなぜクリスチャンと呼ばれるか説明してあげるとよいでしょう。そ

うすれば救い主について証を述べる良い機会にもなります。そして、主のみ名によりバプテスマを受けたこと、主を思い起こすために毎週聖餐せいさんを受けることを説明するとよいでしょう。また、モルモン経を紹介し、読むように勧めるとよいでしょう。ただし強制してはなりません。目次やイエス・キリストについて記された箇所を少し見せるだけでも十分です。

しかし、単にあなたに嫌がらせをするために教会のことを持ち出しているだけなら、にこやかに、「あなたは誤解していると思います」とだけ言って、その場を立ち去る方がよいこともあります。

時には、反モルモンの映画を見たり出版物を読んだりした人に会うことがあります。尊敬する大人に、この教会についての誤った知識を植えつけられたのかもしれない。彼らは、私たち末日聖徒についてよく知っていると思っています。彼らの中には、自分に理解できる範囲で、救い主を心から愛している誠実な人たちも多いのです。救い主を話題の中心にしてみてください。彼らはクリスチャンをどう定義しているかを尋ねて、互いの共通点を探し出してください。たとえば、

次のように言うといでしょう。私たちはキリストにあつて「生まれ変わる」ことを信じています。それが信仰、悔い改め、バプテスマ、そして聖餐をいただくことの意味なのです。私たちは、最善を尽くして努力した後、主の恵みによって救われると信じています。(II ニーファイ10:24, 25:23参照)私たちは、主への信仰を公言し、主のみ名によってバプテスマを受けて罪の重荷を取り除いてくださるよう主に頼るとき、キリストを救い主として受け入れるのです。

しかし、そのような話し合いを経た後も、キリストとその福音に関して聖書に書かれていない事柄を信じているという理由で、私たちをクリスチャンではないと言う人たちもいます。彼らは「クリスチャン」という言葉を、私たち末日聖徒を除外する形で解釈したいだけなのです。実際私たちは、聖書以外の聖典からも救い主と福音についてさらに一層深い知識を与えられていると宣言しています。聖書以外の聖典を受け入れない人は、その中の教えも受け入れないでしょう。私たちの啓示された教えを排斥する形で、「クリスチャン」を定義づけたのなら、それは彼らの自由です。

思い起こしていただきたいのは、この教会がキリストとキリストの教えを基に建てられ、主は予言者と十二使徒を通して、今日も私たちを導いておられるのをあなた自身が知っていることです。その証を強くいきいきと保ち、真のクリスチャンとして、できる限り良い模範となれるように生活してください。同時に、ほかの人の信念について話し合うときは、人に中傷されることの痛みを忘れないことです。主が迫害には愛、不親切には親切、また偏狭さには忍耐でこたえられたその模範を、いつも心に留めておきましょう。

青少年の意見

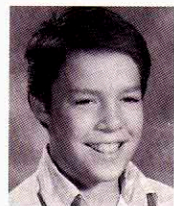
メキシコでは教会は発展しているものの、末日聖徒の数はまだ多くありません。自分の兄弟を除けば、小学校から高校までずっと教会員は私ひとりでした。確かに批判されるのはつらいことですが、人が教会を意識するようになるにつれ、私たちの言動に一層注目するようになるのだとわかってきました。

人が教会を批判するとき、私はいつも彼ら自身の信じられることを非難せずに、教会

の教えを説明するようにしてきました。福音の原則についてむづかしい討論しようとはせずに、友好的に彼らの意見を尊重するよう心がけました。

私は天父が望まれるような生活をするように心がけてきました。教会の標準に従うことによって、模範を示すことができたと感じています。なぜ私がそのような標準を守るのか人が興味を示すと、いつも何らかの方法で教会と私の信仰について話すことができました。ロソーラ・カスターネーダ・Aメキシコ、イラブアト

やさしく間違いを正し、一緒に教会に来るよう誘いましょう。彼らの宗教を批判せず、教会について話すことが大切です。キリストならばどうなさるか考え、信仰箇条の第11条を思い出しましょう。



ケビン・ダルトン(12歳)
ネバダ州ラスベガス

何よりも、自己弁護しようとして口論しないことで

す。口論する人は相手の話を聞きません。また、すべての人の考え方を考える責任を一身に負っていると考えるのはやめましょう。まず知っている人から始めます。クリスチャンであるとはどういう意味か尋ね、彼らの意見を誠意をもって聞きましょう。ほかの教会へ行っているなら、その教会のことを話してもらい、互いの相違点と類似点について話し合います。きっとたくさん似ている部分があることに気づくはずで、自分の教会が優れているという態度はとらずに、聖書を主体に、モルモン経も聖典として引用しながら、相違点とその理由を説明してみます。質問してくれるなら、喜ばしいことです。真剣に話を聞いてくれた証拠だからです。

もし、理性的に考えてさえもらえれば、私たちの信仰を受け入れないまでも、モルモンはクリスチャンであると理解し、敬意を払ってくれるようになるはずで、あなたも同様に彼らの信じることに敬意を払うことが大切です。話し合いが口論に発展するようであれば、そこで打ち切り、またの機会を待ちましょう。レベッカ・ニールセン(19歳) ペンシルベニア州プリンモア

私の学校にもそんな人はたくさんいます。私はそんなときにはまず、天のお父様に祈り、どうすべきか尋ねます。お父様が一番良い方法を教えてくださいと証します。



シェリー・ギルソン(16歳)
カリフォルニア州
オレンジビル

教会の教えを説明し、私たちがクリスチャンであり、キリストを信じ、キリストのことを話し、キリストにあって生き、主に仕える者であることを知ってもらうには様々な方法があります。

最も理想的な方法は模範によるものです。末日聖徒としての私たちの模範は、何よりも明確な生きた証ではないでしょうか。

末日聖徒だと宣言した時から、私たちは注目的になります。人々は私たちの信仰に誤りを見つけようと躍起になるのです。でも、福音の教えに従って生きていけば、人々を助けることができますし、私たちが彼らを愛していることも知らせてもらえると思います。

主は、「^{なんじ た おの}汝ら起ちて己が光を輝かせ。これ汝らの光よるずの国民のはたじるしとならんため」と言われました。(教義と聖約115:5) 私たちの光を輝かせることができれば、人々により影響をもたらし、福音と教会の正しいことが明らかになると証します。

グロリア・エウニサ・
タピア・カベヨ(21歳)
メキシコ、ピヤイダルゴ

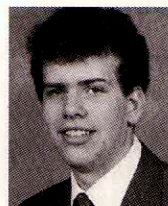
まず自己弁護をしないことです。私たちの宗教を批判する人たちは、あなたを怒らせようとそうしているのかもしれませんが、悪い感情や怒りのあるところには、みたまは宿ることはできません。心を落ち着けて、自信を持ちましょう。そして信仰を分かち合う機会を探してください。

導きと忍耐の祝福をいただけるように天父に祈ってください。

ベニー・ホラン(16歳)
ニューヨーク州リボニア

攻撃するのは、教会のことをよくわからないからです。だからいつもほほえみを忘れず、教会に誘いましょう。キンバリー・ガンドルフ(13歳) イリノイ州フリーポート

私はテキサス・サンアントニオ伝道部から帰ったばかりの帰還宣教師です。伝道中、同様な非難に幾度も遭遇した経験から、口論はまったく無意味なことを悟りました。簡潔な証が最も有効なのです。私は普通こんな風に言っていました。「あなたがそのように感じていらっしゃるのには残念ですが、私はイエスが神の子キリストであることを知っています。」だれもあなたの証と争うことはできません。救い主は模範によって多くの人々に影響を与えられました。模範こそ、あなたがクリスチャンであることを人に知ってもらう最良の方法であることを忘れないでください。



ケビン・カンディック
(21歳)
ユタ州オグデン

人の 良い点を見つかる

グレン・ヨルゲンソン

周 囲の人や、自分に対する物の見方を変えたいと思いませんか。ちょっとした練習方法を紹介します。この練習をすると、ほかの人たちの良いところが見えてくるだけではなく、自分の気持ちまで明

るくなってきます。

1. 友人、家族、教師など、きょう1日観察したいと思う人のリストを作ります。

2. その人たちと接するときに、彼らの何かすばらしい行ないを探します。笑顔、親切な行ない、思いやりのある言葉、聞き上手なところ、おおらかな様子、感謝の言葉、ユーモアのセンス、誠実な態度など、何でも良いのです。

3. あなたが気づいたその人の良い点を、いく

つかリストに書き出します。

4. 今度は、相手にそれを伝える機会を見つけます。相手の良い行ないを、誠実な気持ちで伝えてください。こうしてリストに書き出す相手を毎日変え、1週間これを続けます。

5. 次にあなたの行なっていることを友人にも話し、それから2週間、ふたりで一緒に同じことを実行します。

6. 最後に、リストの中で十分観察できなかった人の名前をもう一度書き出します。この人の良い点を3つ、また観察して書き出してください。これもやはり、相手に伝えます。

7. 以上が習慣になるまで繰り返しましょう。□



敵国の 兵士の証

W・ハーバート・クロップファー

私たちの憎む敵国の軍服を着た男性が、
私たちに対する大きな愛を胸に満たして、
証をしてくれました。

私の父は、第二次世界大戦が始まった年に、東ドイツ伝道部の伝道部長に召されました。しかし、それと同時に、ドイツ陸軍に徴兵されたのです。そこで父はふたりの副伝道部長を通して、戦場から伝道のみ業を管理しました。

クリスマス前のある安息日のこと、家族を離れ、遠くデンマークの地に配属されていた父は、とても寂しい気持ちになり、聖餐会せいさんで主を礼拝したいと思いました。エスビエアに教会の支部があるのかどうかわかりませんでしたが、もしかしたら町のどこかにあるかもしれない、と考えました。デンマーク語は話せませんでしたが、軍服の正装に身を包み、大好きな賛美歌のメロディーを口ずさみながら、町を歩きました。だれかが自分のことに気づき、教会へ導いてくれるように願ったのです。

はたして、ひとりの少女が、父の前を通り過ぎるとデ

ンマーク語で「モルモンですか」と尋ねてきました。父がうなずくと、彼女は父を支部の集会所まで連れて行ってくれました。

もし、敵国の国民と一緒に礼拝行事に参加しているところをナチの官吏に見つかろうものなら、反逆罪に問われ、死刑に処せられてもおかしくありませんでした。父はそのことを承知の上で、命を懸けたのです。父はもうひとつの危険を冒しました。集会所の玄関で支部長に武器ベルトを預け、さらには、もうひとつの敵国の言葉である英語を使い、聖餐会でクリスマスのお話をするようにという求めにも応じたのです。

この支部の会員であったある若い女性が、私の母に手紙を書きました。そこには、自分たちの支部に敵国の将校が訪問したときの不思議な経験が記されていました。

「昨晚、私が支部に集うと、そこにひとりのドイツ人すなわちあなたのご主人が出席していました。ドイツ人を憎むデンマーク人は多かったのですが、私たちはそのドイツ人が大好きになりました。彼は英語で私たちに話をしてくれました。ウィリアム・オーラム・ピーターソン兄弟が通訳をしました。ご主人は、ほんのひと月前に自分の持ち物をすべて失ったこと、伝道本部が取り壊されたことなどのいきさつを話してくれました。そのような中であって妻や子供が無事であることを感謝していると言っていました。それから、教会が真実であることについて証をしました。私たちの憎む敵国の軍服を着た男性が、私たちに對する大きな愛を胸に満たして、証をしてくれたのです。それは本当にすばらしい光景でした。彼も、末日聖徒と交わることができて喜んでいました。」

それから何年もたって、私たちのもとへもう一通の手紙が届きました。その時すでに父は亡くなり、私たち家族は1950年代にソルトレークシティに移り住んでいま



した。この手紙は、教会系図協会で働く女性から送られたものでした。この女性のご主人がエスビエアの支部で私の父に会ったというのです。その手紙の中には、父がデンマークに住む彼女の夫にあててロシア滞在中に出した手紙が同封されていました。その手紙にはドイツ軍当局の検閲を受けた跡がありました。私たちは、ドイツの陸軍将校が英語で書いた手紙が、どのようにしてデンマークに住む彼女の夫のもとに届けられたのか不思議に思いました。手紙の差し出し日は1944年5月になっており、次のように書かれていました。

「親愛なるオルセン兄弟へ

2カ月以上前に、私はデンマークに別れを告げました。この2週間というもの、私は戦争の恐ろしさを体験しました。しかしながら私は不思議な力で負傷や病気から守られたのです。私は主から多くの祝福を受けたことを感謝しています。また、母国で愛する家族と再会できる日を楽しみにしています。今までのところ、妻も子供たち

も日々ドイツ上空を飛び交う敵軍戦闘機の恐怖から守られています。あなたやエスビエアで出会った愛する友人のことは忘れません。皆さんが今後も幸運に恵まれますように祈っています。どうぞ皆さんにくれぐれもよろしくお伝えください。

敬具

ハーバート・クロップファー」

父の福音と教会員に対する愛に国境はありませんでした。父は、大きな危険を冒しながら、あのデンマークの支部を訪問し、自らの愛と証をその地の会員と分かち合ったのです。第二次世界大戦も終わろうとしていたころ、父は東ドイツ伝道部の戦時下伝道部長としての召しを受けたまま、ロシア領の奥地にある捕虜収容所で飢えのためにこの世を去りました。□

* W・ハーバート・クロップファー兄弟：ユタ州グルゲートステーキ部ステーキ部長。





安息日を家族で 聖く守るために

安息日を聖く守るために最も大切なのは準備です。個人としては、前もって準備しなくても安らかで喜びに満ちた安息日を過ごせる人はいるでしょうが、現代の忙しい家族にとっては、日曜日の朝になってから何もかも準備をするようでは、主が命じておら

れるような安息日を過ごすことができないかもしれません。前日に準備しておくべきことはあるのです。

子供のいる家庭なら、日曜日に着る服の洗濯やアイロンかけ、くつ下を選ぶことや靴磨き、持って行く聖典の用意なども安息日の準備です。日曜日の

前に食料品の買い物や用事を済ませておくこともそうです。買い物を週日の間に済ませておくことは、自分たちが安息日を迎える準備となるとともに、安息日に人を働かせずに済むことにもなるのです。

残念なことに、計画したり、任せた



安息日を聖く守り、家族と一緒に時間を過ごすための準備は、掃除や買い物、地域によっては1日分の水くみを前もって済ませておくことなのです。

標準聖典の好きな箇所を教え合う、賛美歌と一緒に歌うなど、家族は様々な方法で安息日の精神を楽しく守ることができます。

りが上手でないと、準備の仕事がほとんど母親ひとりにかかってきます。ある母親がため息まじりに言いました。「家の中が汚いままで、食事の献立も仕度もまるきり手つかずのまま日曜日になると、すがすがしい気分で楽しい安息日を過ごすなんてとても期待できません。

ところが、こんな安息日にしたいと考えて、夫と一緒に土曜日のうちに準備をするようになってから、安息日の来るのがうれしくて、ほんとに安息の日なのだと感じるようになりました。」

父親が妻に任せきりにしないで準備を分担するならば、家族の生活に大きな祝福があります。ある父親はこう語っています。「日常的な雑用によって安息日の平安がかき乱されないように、

私が忘れずに前もって準備しておけば、日曜日に家族の混乱が少ないのです。それで妻と話し合って、日曜日の準備が早く始められるように、仕事や家事を前より早く終わらせることにしました。」

親がひとりの家庭でも、協力と委任があれば準備は同じように上手にできるはずですよ。

もうひとつ役立つことは、日曜日の食事を「真心をこめて」用意しなさいという主の勧告に従うことです。(教義と聖約59:13)夕食の下ごしらえをあらかじめ済ませておくとか、日曜日は簡単な献立に決めているとか、食事作りに手をかけない工夫をしている家庭があります。調理や配膳、後片付けを父親や子供が手伝えば、母親の負担

は軽くなります。

ふさわしい活動

私たちの時代に、主は安息日についてあまり多くの規則を与えてはられません。日曜日には「祈りの家に行き……汝の聖式を捧げ、」働きを休むべきであると教えておられます。(教義と聖約59:9-10)

私たちは、6日間のこの世の煩いや労働を離れて、本当の意味で安息を得ようと決心する必要があります。そのために家族皆が日曜日の買い物や営利的な活動を避けて、この日を主のために取っておこうと決心しなくてはなりません。

主はイスラエルがエジプトから脱出した昔に、安息日を祝福して聖とせよと勧告されました。この日には私たちが働かないだけでなく、他国の人も働かせないようにとはっきり言われています。(出エジプト20:9-11参照)安息日に何かの仕事を奨励すれば、だれかを働かせることになるわけです。

必要な場合以外、私たちは日曜日に働くべきではありません。それは、日曜にアルバイトの予定が入るのは仕方がないと考えている青少年にも言えることです。毎週日曜日に働かなければならないような仕事は対象から外すように勧めてください。

言うまでもなく仕事の中には曜日を問わず昼夜を分かたぬ仕事があります。そのような職業に就いている人は、なぜ日曜日に働かなければならないのかを子供が理解できるように助けてあげてください。また、たとえ日曜日に教



PHOTOGRAPHY BY KURT OLSON



会に行けなくても、時間を取って家族で聖典を勉強できることを示してください。また、家族の祈りや個人の祈りをしたり、特に、折あるごとに福音を分かち、愛を伝えたりすることによって、キリストのような態度を一日中保つように努めてください。

安息日にどの活動がふさわしく、どの活動がふさわしくないか、判断するときには次のことを考えてみましょう。

それは主をたたえることでしょうか。

それは良いことでしょうか。

それは霊を高めることでしょうか。

主はそれを認めてくださるのでしょうか。

こうした基準に従うことによって、私たちは安息日を喜びの日とすることができます。

日曜日の服装

日曜日は主の日です。世の煩いを離れて、主をたたえ、礼拝する日です。私たちは実際に仕事を休んで礼拝行事に出席し、自分の生活をもっとキリストに近づけることによって、それを行なうのです。この世を離れるということには、平日に着的仕事着や普段着はやめて「よそ行き」の服を着ることも含まれます。それは救い主に対する私たちの敬意と愛を表わすひとつのしるしとも言えます。

「よそ行き」の服といっても、手持ちの服の中で一番清潔できちんと手入れされたものでよいのです。大事なことは、その服がきちんとした清潔なもので、安息日の精神にかなうことです。ぜいたくな、けばけばしい服装は、慎

どのような環境にあっても、私たち自身が安息日を聖く守るための準備をすることにより、教会の集会はもっと楽しいものとなるはずで、それは神の武具をまとう確実な方法のひとつです。

みのない服や汚れた服と同じように似つかわしくありません。

安息日を守るのは集会のときだけでなく、この日全体に及ぶことを子供たちに教えてください。集会から帰宅すると普段着に着替えることがあります。集会後もスーツにネクタイで過ごさないと言うのでは決してありませんが、集会の雰囲気のまま壊さないような服装でいたいものです。

礼...拝

イエスは「安息日は人のためにあるもので」（マルコ2：27）、人の生活を豊かにし、祝福するものであると教えられました。さらに、「この聖日は、汝命ぜられて働きを休み、いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり」（教義と聖約59：10）とも言っておられます。仕事を休んで主を礼拝すると、私たちの霊と体は新たな力を得ます。特に断食安息日はそうです。共通の目的のために一緒に断食することにより、家族はほかに経験できない形で一致することができます。小さい子供にも、祈りを込めた真心からの断食の大切さを教えることができます。

幼児には、集会中は敬虔に座しているのが大事だということも教えてください。ある夫婦は、日曜日の礼拝について子供にどのように教えているか次のように語っています。「一番下の子にも積極的に歌わせています。一緒に賛美歌を見ながら、子供にも持たせて、歌詞や音符を指でたどりながら歌います。

そのほか、支持や解任、特に聖餐を

受けるときなど、聖餐会の厳粛な部分は子供にも参加させるようにすると思います。

お話の間は、何を言っているか、耳もとでささやいて大体のことを教えてやっています。」

別の家族は、聖餐会に紙と鉛筆を持っていきます。年長の子は話のメモをとり、あとで話し合いたいと思う問題点などを書き留めています。

またある家族は毎日曜日の朝、日曜のお祈りのときに特別に用意したテーブルを囲みます。「夫か私とその日のテーマを発表します。」母親がこう語ります。「たとえばテーマが知恵の言葉だとすると、テーブルに果物を盛ったお皿や自家製の瓶詰、穀物などを並べておくんず。ほかのテーマのときは歌を歌ったりお話や聖典を読んだりして、一日中テーマの具体例がわかるようにしています。

夜にまたテーブルの周りに集まるときは、子供たちがその日のテーマについて学んだことを発表するんです。日曜日がとても楽しいようで、テーマの提案箱はいつもアイデアがいっぱいなんですよ。」

勉 強

聖典の勉強をするにはいろいろな方法があります。特定の聖典をひとつ選び、初めからスタートするのもよいし、信仰、贖罪といった主題を決めて標準聖典全部を読みながら研究するのもよいでしょう。

ある家庭では日曜日には個人で聖典を研究し、ほかの日はみんなで輪読す

ることにしています。日曜日に月曜日の家庭の夕べのレッスンを準備する人もいます。レッスンを日曜日にして、月曜日の夜は活動を行なう家族もあります。日曜日と月曜日に一緒に時間を過ごす家族は、世の風潮に流されず、以前より霊性が増したと語っています。

たくさん家族が週日の朝に聖典を読んでいるが、そのような家では日曜日の家族の活動に子供たちが聖典の勉強を選ぶこともあります。日曜日にはもっと深く学ぶことができるのです。

聖典の勉強ばかりでなく、一緒に日記をつけたり、親戚や宣教師に手紙を書いたり、福音に関係のあるゲームをしたり、よい音楽を聞いたりする家族もあります。

奉...仕

日曜日の使い方として、人々への奉仕を計画の中に加えるのはふさわしいことです。ある家族は、安息日には少しでも時間を取ってだれかのために奉仕をすることに決めています。

隣人やワード部の教会員が病気だったり入院していたりしたら、家族で見舞いに行くと喜ばれるでしょう。近所の養護ホームに入っていて身内が近くにいない人たちに、クッキーを持って行く家族もいます。

スペンサー・W・キンボール大管長は、安息日は「親戚、友人を訪れ、ホームティーチングを行ない、系図の記録を調べ、軽い眠りを取り、宣教師や軍人、親類に手紙を書き、翌週の教会のレッスンの予習をし、幼い子供と興じ、目的を持って断食し、敬虔な詩を



PHOTOGRAPHY BY KURT OLSON

書き、その他様々な価値ある活動をする日である」と語っています。（「奇跡に先駆ける信仰」pp.270-71）

積極的な姿勢

安息日を聖く守るように子供たちを励ますときには、前向きな姿勢で行なわなければなりません。ある家では、してはならないことを挙げる代わりに、してよい活動を表にして掲示板に書き込んでいます。そして、子供ができないことについて不平を言うときには、一緒にその表を見ることにしています。こうした考え方は早ければ早いほどよく教えることができます。年長の子供にとっては、安息日の新しい過ごし方になじむまで少し時間がかかるかもしれません。

何より大切なのは、この日を、子供たちが両親に愛されていること、また両親が天父を愛していることを感じられるようにすることです。一日中朝から晩まで子供のための活動に費やさなければならないというわけではありません。むしろ私たちはそれぞれに、ひとりで瞑想めいそうしたり計画したり心身を活気づけるための静かな時間が必要です。

安息日を聖く守ることは、世のものを退けて、神の武具をまとうための確実な手段のひとつなのです。□



シャルトルのふたつの塔

リチャード・M・ロムニー



PHOTOGRAPH COURTESY OF FPG INTERNATIONAL

シャルトルの街に高くそびえる大聖堂のふたつのせん塔のように、この街でふたりだけの末日聖徒の青少年の夢は大きくふくらんでいます。

ふたりはどちらも12歳で、ちょぴり恥ずかしがり屋です。シャルトル支部の青少年は、このユージン・ダーナンビー兄弟とカーティア・ゾビリー姉妹のふたりしかいません。ここシャルトルは、フランスはパリ盆地の南西部に位置するボース地方の中心地です。

ユージンとカーティアの住むこの街には、有名な大聖堂があります。ゴシック建築の最高傑作といわれ、世界で最も美しいと評されるステンドグラスの窓とふたつのせん塔を持っています。シャルトルのこのふたつのせん塔は、フランスの小麦の大半を産出する広々とした麦畑を越えて何十キロ先からでも見えるのです。この大聖堂を知らない人はいません。それは街の、そして国の目印なのです。

しかし、ユージンとカーティアは別の町の教会に通っています。集会は、名もない建物の中で行なわれていま

す。

「私たちの集まる支部の建物のことを聞くと、皆びっくりするんです。清潔できれいな建物には違いないけど、街にあんなに豪華な大聖堂があるのにどうしてそこに行かないのかって皆が不思議がるんです。」

こう語るカーティア姉妹の話に十分耳を傾ける時間があれば、彼女が支部に通うことを喜んでいるということがわかるでしょう。「私たちは福音を学びます。真理や互いに愛することを学んでいるんです。」

ユージン兄弟も、友達に教会に通っていることを話すと同じような反応が返ってくるといいます。

「学校の友達に宗教のことは話しながらないんだ。授業には宗教の時間があるけど、みんな無理やり勉強させられているように感じていて、ぼくが毎週教会に行っていることを話すとびっくりするよ。」

ユージンは以前は教会はどれもみな同じだと思っていました。ところがある日、宣教師がやって来て、家でレッスンが始まりました。ユージンは徐々に、福音が回復されたこと、若い男性が果たすべき大切な役割がその中

にあることを理解するようになりました。こうしてバプテスマを受け、12歳になって執事に聖任されたのです。

「この街全体でアロン神権者はぼくひとりなんだ。メルキゼデク神権者は何人かいて、ぼくを助けてくれるけど、^{せいさん}聖餐会で聖餐を配るのはぼくの役目だよ。」

街の上に高くそびえるふたつのせん塔が互いに異なっているように、ユージンとカーティアもそれぞれに個性豊かです。カーティアは5人兄弟の長女で、ユージンには27歳になるお兄さんがひとりいます。カーティアの家族は皆教会員ですが、ユージンの家族ではお母さんと彼だけが教会員です。

「私が好きなのは、本を読んだりハーブを弾いたりすること。それから……、自転車に乗ったり、チェッカーをしたり、田舎のおばあちゃんのところに行って馬に乗ったりするのも好きよ。ユージンの趣味はね……」カーティアはユージンを指さして、こう言いました。「食べること。」

ユージンはからかわれても平気な顔をしています。そのとおりだからです。

「ぼくはケーキが好きなんだ。」

どんな種類のケーキでしょう。

「えっ、ケーキに違いなんてある



シャルトルの街にそびえる
この大聖堂には
名高い2本の異なったせん塔と
ステンドグラスの窓があり、
世界で最も美しい
建築物のひとつに
数えられています。

の？」

「食べるだけじゃないわ。」カーティアは笑いをこらえきれない様子でこう言いました。「寝るのも得意なのよ。」

でもユージンはスポーツも好きだと断言しました。特に、陸上競技、バレーボール、テニスは得意です。

ほかにもふたりに違ったところはあるのでしょうか。

「日曜日の朝早起きするのは平気だよ。ぼっちり目が覚めるんだ。」ユージンはそう言います。

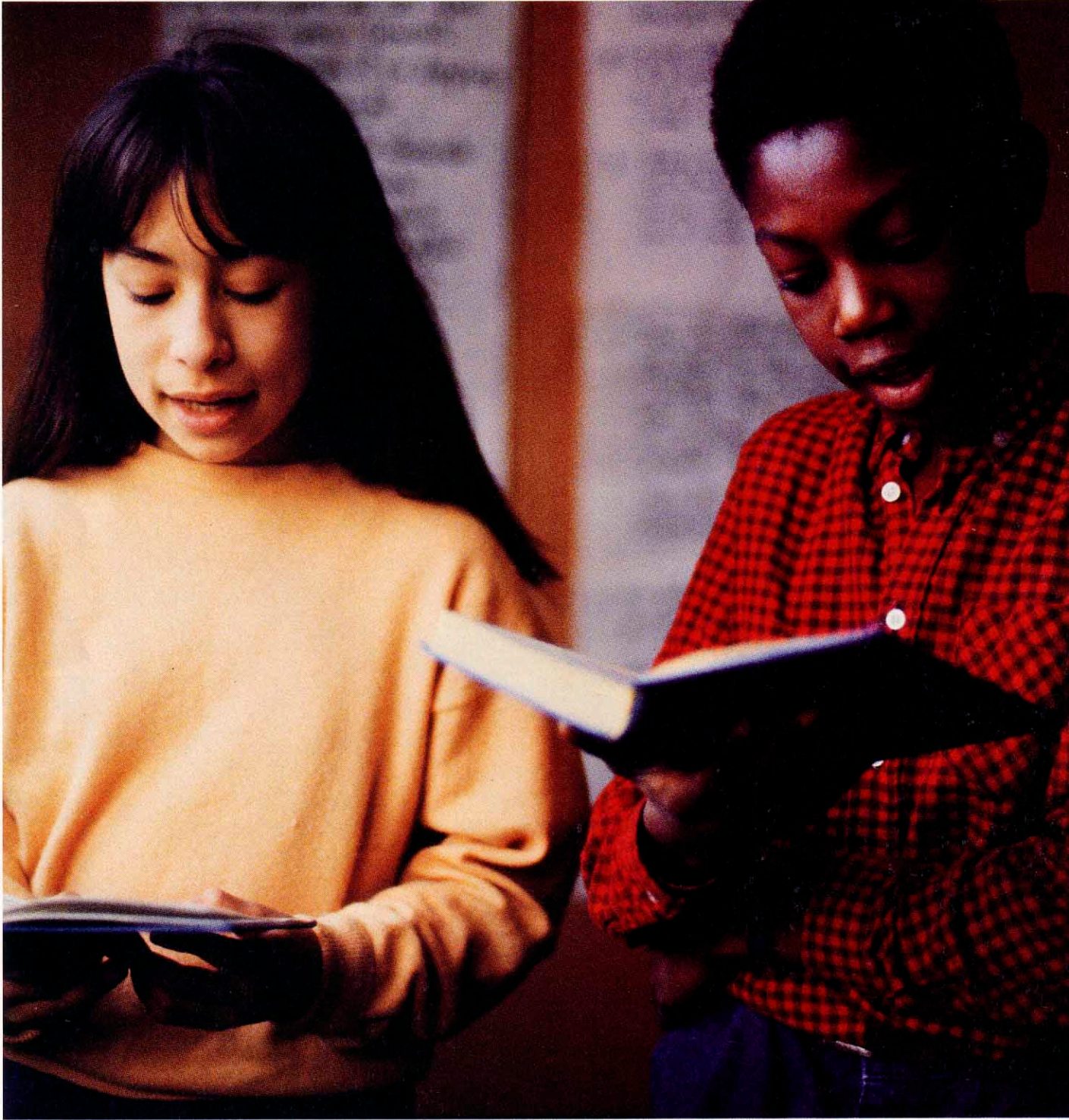
でもカーティアは「ときどき寝坊したり、機嫌が悪くてふくれたり、文句を言ったりしてしまうけど、安息日に教会に出席するのは主の戒めだから、本当は行きたいと思っているの」と語ります。

ふたりはそれぞれ違った面を持っていますが、やはりシャルトルのあの名高い2本のせん塔と同じように、このシャルトル支部のふたりの青少年会員は共通の基盤を持っています。

「私たち歌うのが大好きなの。私、歌っていると幸せな気持ちになるから」とカーティアは言います。

「ぼくだって好きさ。調子っぱずれにならない限りね。」ユージンはそう言いました。





ふたりに歌を歌ってくれるように頼むと、賛美歌が次から次へと飛び出します。伴奏なしで30分でも歌います。歌詞を全部知っているからです。

「毎日とても忙しいよ」とユージンは語ります。「学校も大変。正規の科目(英語、美術、歴史、地理、数学、国語、科学、物理、体育など)のほかにもいろいろやらなくちゃならないことがあるんだ。」フランスの生徒たちは一生懸命に勉強して、一番最後には小学校から高校までの全教科について試験を受けなければなりません。もちろん別々の心配もあります。

「学校では周りの女の子たちがたばこを吸うように誘うのよ。」カーティアが言いました。「学年が進めば、もっと強い誘惑が増えていくわ。今から自分をもっと強めて、誘惑に対抗できるようにしておかなくっちゃ。」

この点でも彼らの生活に教会が大切な役目を果たしているのです。

「支部では皆がお互いをよく知っています。ちょうど大きな家族みたいに、とても親しくて、固いきずなで結ばれているの」とカーティアは語ります。

ユージンはシャルトル支部の青少年プログラムを正しく理解しています。

「青少年の数は少ないけど、ふたりで



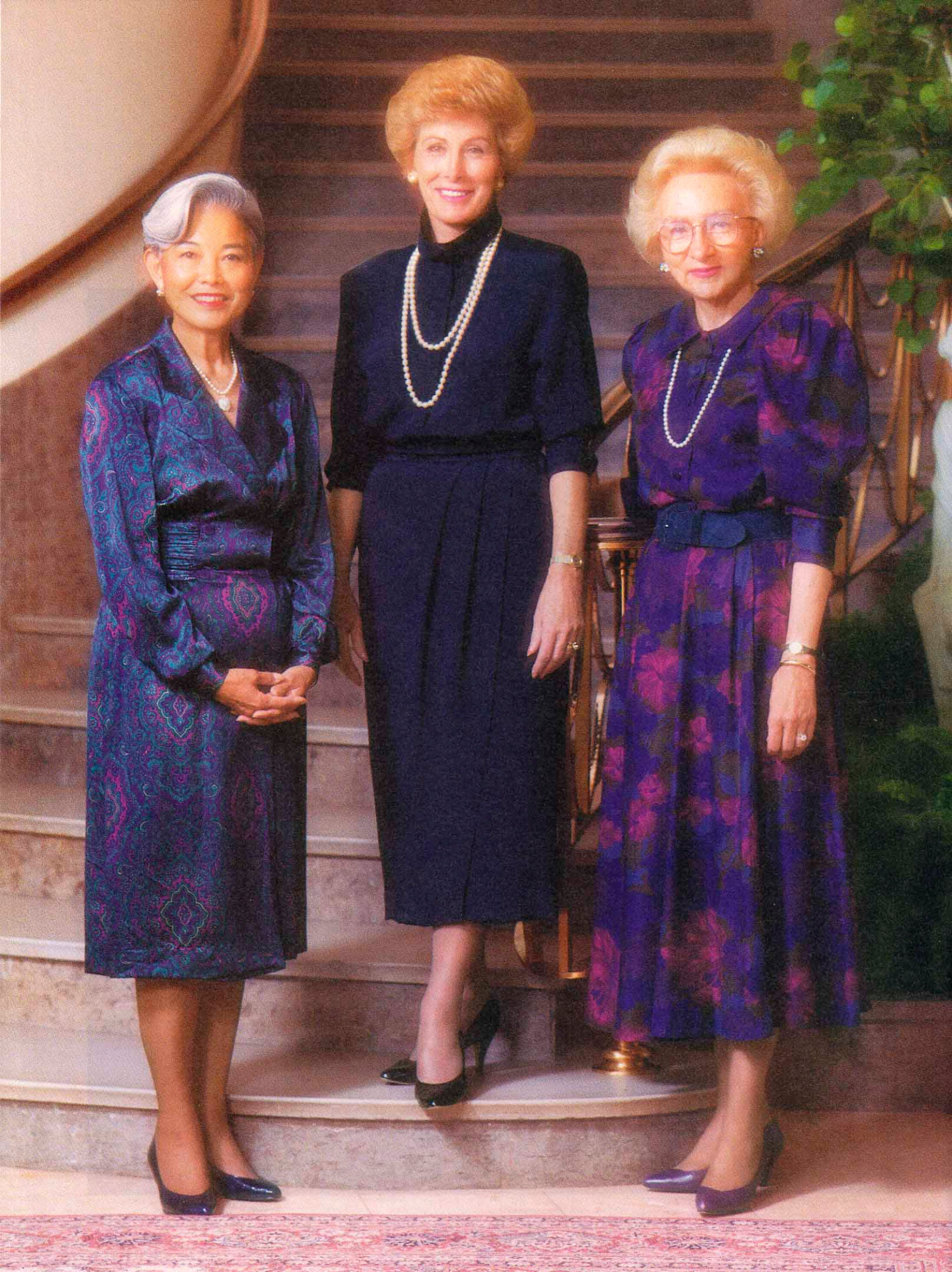
フランスのほかの街と同じように、
シャルトルにも
花や野菜が所狭しと並ぶ
市場があちこちにあります。
どの品物も、
ユージンやカーティアの
生活のようにみずみずしく、
満ち足りて見えます。

も十分だよ。」

カーティアはこう言います。「確かに今はふたりしかいないけど、プライマリーには今15人の子供たちがいます。私たちは将来のことを考えて、模範を示しているんです。今私たちが頑張っておけば、いつかすばらしい青少年プログラムができるようになると思います。」

ユージンとカーティアが特別な青少年なのは、この発想があるからなのです。支部に青少年の数が少ないと言って不平をこぼすこともできるし、自分たちに合ったプログラムがないと言って不満を言うこともできたはずですが、ところが彼らは受け身の姿勢を捨てて、自分たちにできることを探しています。自分のことよりも、ほかの人々のことに心を配っているのです。

シャルトルの教会は現在は小人数で集会を開いています。しかし、出席者は増えつつあります。ユージンやカーティアのように12歳の教会員であっても将来の礎を築き、その若さにもかかわらず、力強い塔になりつつあるのです。□



中央扶助協会会長会からの あいさつ

私たちは愛を持って皆さんにあいさつという言葉を書かせていただきたいと思います。扶助協会の働きが今ほど必要とされた時期はかつてありませんでした。私たちは、この業に積極的に参加する人々には豊かな人生が祝福されることを知っています。強調したい分野がいくつかあります。

証を築く

中央扶助協会会長イレイン・L・ジャック姉妹はこう述べています。「証は、選択の結果であり、環境の産物ではありません。私の人生において、証は常にみずから選択して得てきたものです。この選択は人生のほかのすべての事柄にも意義を与えてきました。」

証を築くのは、幸福な人生の始まりです。証は、日々の生活の中で、力を尽くして積極的に信仰と希望を實踐していくときに徐々に成長していきます。祈りは、信仰と希望を得るための大切な手だてです。

中央扶助協会会長会。会長イレイン・L・ジャック姉妹(中央)、第一副会長チエコ・H・オカザキ姉妹(左)、第二副会長アイリーン・H・クライド姉妹。ユタ州ソルトレークシティの扶助協会ビルにて。

自分自身を尊ぶ

すべての女性は、自分自身に関する主のみこころを知るために、ふさわしい生活をするという義務を持っています。ジャック姉妹はこう述べています。「正しい生活には価値があるということを理解する姉妹は祝福を受けることができます。この点を理解していないと、自分の人格を高め、真の成長を得る妨げをみずから招くこととなります。『これがあるままの私の姿で、私は自分が好き』と言えるようになれば、気持ちが晴れ晴れとしてきます。」

主は私たち一人一人を愛しておられます。それを知っている人は、安らぎと理解力を得、人生の中で求められるすべての事柄を行なう力を見いだすことができます。

慈愛の特質を伸ばす

「この愛はキリストの純粋な愛であって永遠につづくものである。従って終りの日にこのような愛を持っている人はさいわいである。」(モロナイ7:47)

扶助協会が「愛はとこしえに絶えることがない」というモットーを掲げていることには、大切な意味があります。慈愛を基本として働きを進めるなら、豊かで、幸福かつ永遠の実が得られることでしょう。

私たちはほかの人々に対して有意義な奉仕をすることができます。しかし効果的な奉仕をするには、自分の可能性を最大限に伸ばし、知性を高め、人

格を向上させるよう、常に努力しなければなりません。

家族を強める

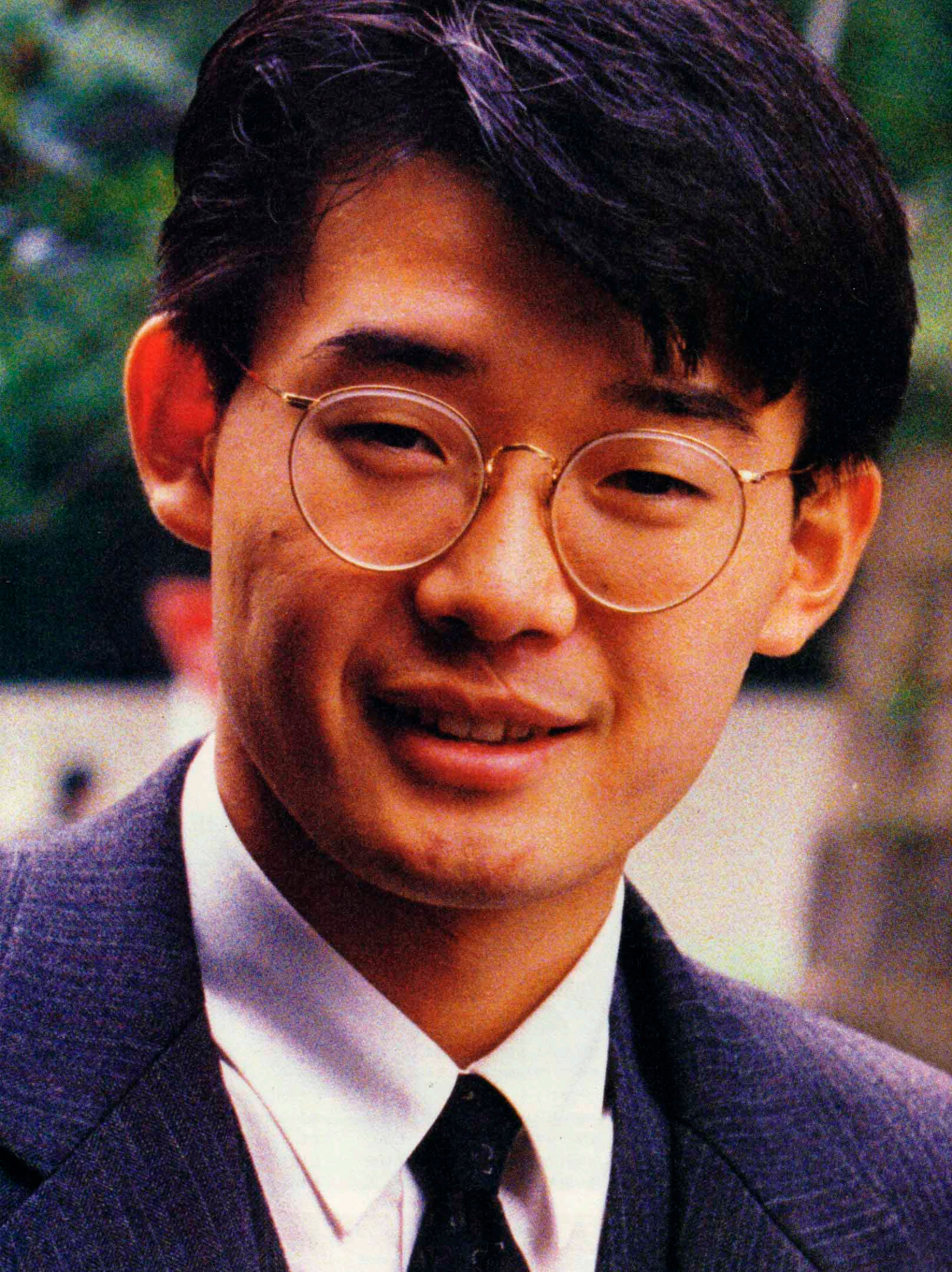
家族はだれにとっても大切な^{いかり}錨となるものです。家族と一緒に住んでいるかどうか、あるいは家族が皆教会員かどうかは問題ではありません。

第一副会長のチエコ・H・オカザキ姉妹はこう話しています。「家庭はだれにとっても幸福と啓発と信頼の場です。家庭は家族のすべてに絶えざる成長と学習の場を提供してくれます。家庭がそのような場となるかどうかは、家族一人一人にかかっています。一人一人が、人生の中で正しい選択をしなければならないのです。」

固く結ばれた姉妹同士の絆を楽しむ

第二副会長のアイリーン・H・クライド姉妹は次のように言っています。「エフタの娘の友達(士師11:37-40)、またマリヤやエリサベツ(ルカ1:39-42)など、聖典に登場する女性同士の絆の事例は、私にこの永遠の価値観を示してくれています。この価値観は現在の扶助協会の中でも得られるものです。」

救い主から与えられた「生ける水」(ヨハネ4:10)を受け、ひとつに結ばれた姉妹同士の絆は、私たち一人一人の生活の中で有意義なものとなることでしょう。そして、各人の個性の違いと共有の価値観とを共に喜ぶことができるようになるのです。□



従順の代価

ステファン・K・クリスチャンセン

「過去10年間にわたって一生懸命に築き上げてきた私の選手生命が終わるのだと思うと、涙をこらえることができませんでした。」

1989年2月5日、十二使徒定員会会員のダリン・H・オクス長老は、日本東京東ステキ部の若い男性たちに次のようなチャレンジを与えました。「すべてのふさわしい神権者は皆伝道に出るべきです。これは神権者の義務なのです。」

この大会で与えられたチャレンジを受け入れた若い男性のひとりが矢田部英正兄弟です。東京近郊の筑波大学に通う英正兄弟は、それまでもしばしば伝道の召しを受けることについて考えてはいましたが、到底実現できない望みだとあきらめていました。

多くの若い男性にとってそうであるように、伝道に出ることはむずかしい選択でした。英正兄弟にとって、伝道の召しを受け入れることは、全日本体操選手権チームの選手の座と国際競技大会に出場する機会を断念することを意味しました。

「大学にはわずかな選手しかいません」と英正兄弟は言います。「そして優勝するためにはチームのメンバーが一丸となって猛練習しなければなりません。食事をするのも一緒です。そして



私たちは技術的に、精神的に、情緒的にもひとつとなりました。レギュラーがひとりでも抜けることはチームの敗北にもつながるのです。だからいつも伝道に出たいという気持ちは持っていたのですが、どのようにしたらチームを離れられるのかまったく見当が付きませんでした。」

矢田部兄弟は家族の中でたったひとりの改宗者でしたが、1981年にバプテスマを受けて以来、ずっと活発に信仰を守り続けてきました。1987年にオクス長老が東京を訪れたとき、矢田部兄弟を含め何人かの教会員の家を訪問しました。そしてオクス長老は、英正兄弟が伝道の機会にあずかることができるように祝福したのです。それから2年たった今、矢田部兄弟はその祝福の言葉を思い出し、オクス長老がステキ部大会で与えたチャレンジを受ける決心をしたのです。

「でも、その後約半年間は体操競技と学業に明け暮れました。全日本選手権に出場するために必死で練習したのです。しかし、将来世界選手権に出場するために、精神的、肉体的に準備をすればするほど、宣教師として働きたいという望みがどんどん強くなっていきました。学生選手権の後、私は監督とステキ部長の面接を受けました。面接の中でステキ部長はこのようなことをおっしゃいました。『もし、あなたが自分にとって都合の良い時に伝道に出るつもりなら、おそらく主ご自

身の都合が良い時にしか祝福をくださらないでしょう。」私はその時、今こそ宣教師に志願する申請書を提出すべきだと確信しました。」

矢田部兄弟が自分の意志をチームのメンバーやコーチに伝えるとすぐに、彼らの猛反対を受けました。「チームの仲間は、私が伝道に出るのをやめさせようと必死でした。」英正兄弟は言っています。「全日本選手権で優勝することは、彼らにしてみれば青春のすべてであり、人生の中で最大の出来事だと言っても過言ではないのです。」

チームの仲間は、矢田部兄弟が自分たちを見捨て、また全国大会で優勝する機会を台無しにすることについて厳しく非難し始めました。「なぜ、来年まで待てないんだ。」仲間がそう尋ねました。「今まで一生懸命練習してきたじゃないか。」またある時はこう言いました。「宗教は人を幸福にするはずなのに、どうして君はぼくたちを困らせるんだ。」

「私は仲間たちが、今まで私が体操を続けるうえで、多くの助けと励ましをくれたことに心から感謝していました。」英正兄弟は語っています。「それだけに私は決して彼らを失望させたくはありませんでした。仲間の助けがなかったなら、今まで残した業績もきつと成し遂げられなかったと思います。私にとって伝道に出ることは、私がそれまでにチームの仲間たちと一緒に築いてきたものをすべて壊してしまうことと同じなのです。私には仲間の気持ちが十分わかるだけに、それは本当につらい経験でした。」

そうした心の痛みを和らげ、慰めを受けるため矢田部兄弟は教会の指導者

の言葉を求めました。するとまさしくその時の彼にとってふさわしいエズラ・タフト・ベンソン大管長の言葉が目に留まりました。「だれにとっても最も大きな試しは、愛し尊敬する人、特に家族を喜ばせるか、神を喜ばせるかのどちらかを選ぶように迫られたときです。……私たちは人生にあって、霊の父であられる神に絶対の優先権をおかなければなりません。……人生にあって大いなる試しは、神に従うことです。」(『偉大な戒め——主を愛する』「聖徒の道」1988年6月号, pp. 5—6)

この言葉を読み終えたとき、矢田部兄弟はとてもしづけられ、大きな慰めを感じました。しかしチームの仲間ベンソン大管長のこの言葉や伝道の召しについて理解してもらえるすべは依然としてありません。彼らが矢田部兄弟を困惑させても、彼は何も言い返すことができませんでした。

1989年9月23日、とうとう最後の練習日がやってきました。「あの日のことは決して忘れられません」と英正兄弟は言います。「私がチームに何か残したいと思いつつ練習をしていると、突然コーチに呼びつけられ、『ここは運動選手の練習場だ。おまえの来るべき所じゃない。荷物をまとめて出て行きなさい』と激しい口調で言われました。」

惨めな思いで彼は荷物をまとめ、そこを出る準備を始めました。しかし、最後に練習場を出ようとするとき、彼は正しい選択をしたのだという特別な証を主から受けることができたのです。そのことを彼は日記にこう記しています。「私の選手生命が終わった。もう二

度と競技者として、この体育館に入ることにはできない。体操競技場を後にしたその瞬間、今まで築いてきたものがすべて終わったことを実感し、涙が止まらなくなった。インターハイ、国体、学生選手権、そして全日本と、10年間必死に築きあげてきた私の体操生活が今、すべて終わったのだ。

あまりにも切ないこの思いを胸に秘めながら、ふと振り返ると、そこには空虚な暗やみ以外何も残されていないような気がした。涙がまるで私を清めるかのように流れた。それは悲しさのためではなかった。多くの人々に支えられ、助けられ、励まされてきた10年間への深い感謝の気持ち、そして何よりも、イエス・キリストのたぐいえない愛と憐れみに対する心からの感謝の涙だった。こうして主に愛を示すことができるのを私は心から喜んでいた。」

次の日から矢田部兄弟はチームメイトの家を一軒一軒、イエス・キリストを証して回りました。すると驚いたことに彼らの態度が変わってきたのです。「主は彼らの心を和らげてくださり、多くの人々が私に対し理解を示してくれるようになったのです」と彼は言っています。

大学を去る前日には、チームメイトが彼のために送別会を開いてくれました。「ほとんどすべてのメンバーが集まり、激励の言葉をかけてくれました。中には私が伝道に行く決心をしたことについて『おめでとう』とさえ言うってくれる人もいました。私は救い主について話し、福音を宣べ、モルモン経を渡すことができたのです。」

矢田部兄弟は、大学を去った後もしばらくは残されたチームメイトのこと

を思うと心苦しい気持ちでした。しかし、その後東京神殿に参入し、自身のエンダウメントを受けたとき、確かに自分の選択が正しかったという証を再び得ることができました。

「日の光栄の部屋に入ったとき、強い霊的な思いに満たされ、神が私たち

ることを心から証します。」

祝福のひとつとして、今矢田部兄弟の両親が宣教師からレッスンを受けています。また彼は今も前のチームメイトと連絡をとっています。

従順に従うことの代価はどれだけのものでしょうか。学生であり、体操選



東京の日本宣教師訓練センターで、ラルフ・土野部長夫妻、同僚と一緒に矢田部英正長老（左）。

に用意してくださっている祝福の偉大さを感じました。そして、私が伝道に出ることが、私にとっても、家族にとっても、またクラブの皆にとっても、永遠の観点からすれば最もよいことなのだとはっきりとわかりました。

私はキリストによって生まれ変わりました。キリストのみ名には力があり、サタンはこれに対してまったく無力です。これが私が神殿で得た証です。」

そのとき以来、矢田部兄弟は決して後ろを振り向かなくなりました。「信仰生活にはいつも犠牲がつきものですが、たとえどんなに大きな犠牲を払ったとしても、神に従うなら、祝福はその何百倍、何千倍にもなって返ってく

手であった矢田部英正兄弟にとって、それはとても高いものであるかのように思えました。しかし今や宣教師となった矢田部長老にとって、主の戒めに従う代価は決して高いものではありません。

彼はこう証しています。「どんなに価値あるものも父なる神が私たちのために備えておられる偉大な栄光と祝福に比べれば、まるで取るに足らないものです。末日聖徒イエス・キリスト教会の忠実な聖徒となるために、たとえばどのような犠牲を払ったとしてもやがて、永遠の報いを受ける時が来るのです。」□

矢田部英正長老は、東京東ステーク部牛久ワード部出身で、現在日本福岡伝道部で伝道している。

福音の味

七十人
モンティ・J・ブラフ

息子のジョセフが12歳のとき、一緒に東アフリカのケニアを旅行しました。首都のナイロビまで飛行機で行き、その先は車でマサイ族が住む地域へ入りました。彼らは友好的で明るくて陽気な部族です。

村に到着すると、ジョセフはあっという間に同じ年ごろのマサイ族の子供たち3、40人に取り囲まれてしまいました。子供たちは、文化や言葉の大きな障壁を乗り越えようと懸命の様子でした。笑い声を上げ、にこやかに息子に話しかけてきました。案内人がこう説明してくれました。「ここは辺境の地なので、子供たちは白人を見かけたことはあっても、白人の少年に会うのは今回が初めてなんでしょう。」

息子が彼らと親しくなろうとしているようなので、私はチョコレートを渡して言いました。「少しあげなさい。」

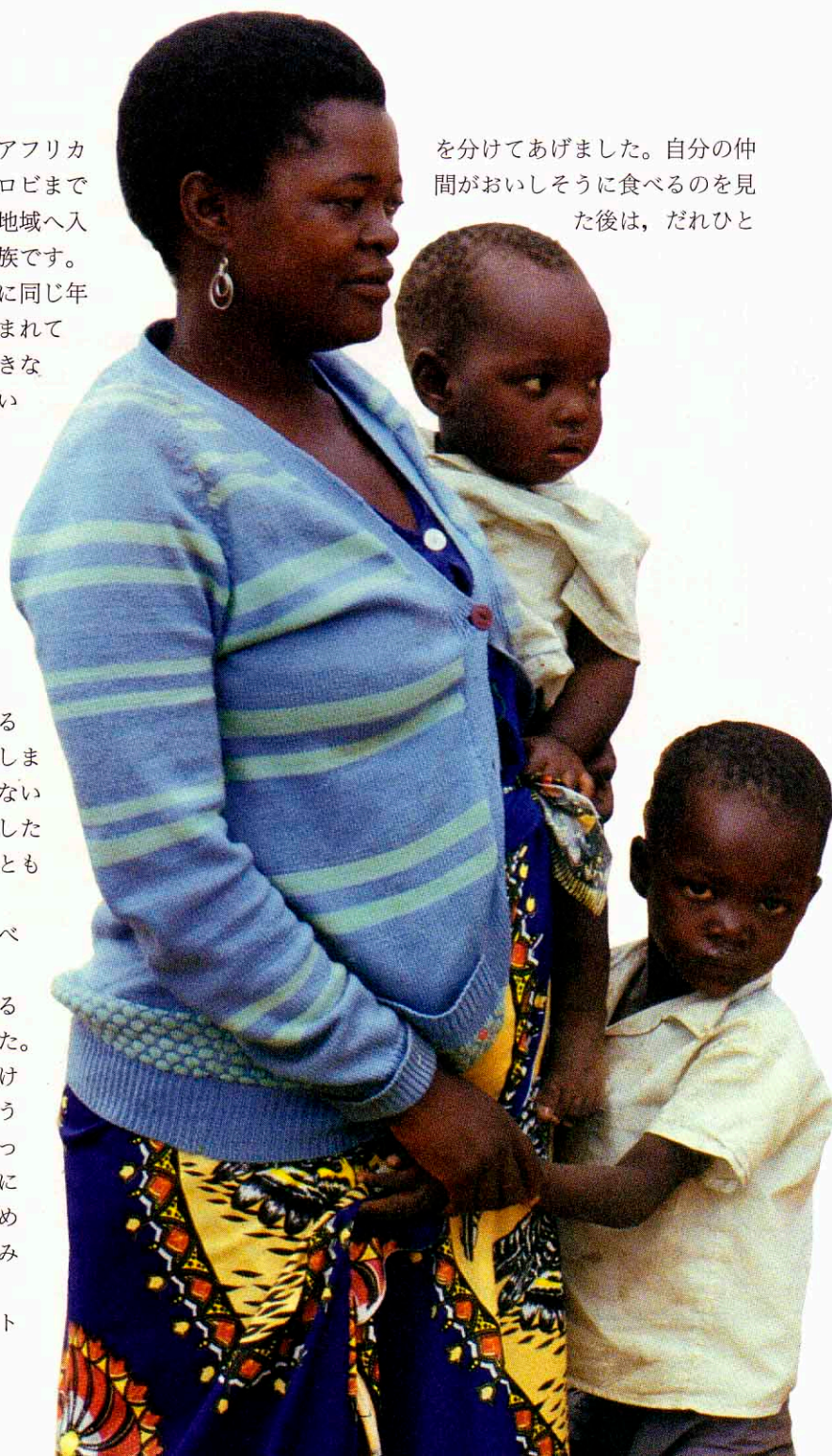
ジョセフは包みを開けてチョコレートを割ると、その一片を14歳ぐらいの少年に渡そうとしました。その時の少年の様子を、私は生涯忘れないでしょう。彼はチョコレートを見て後ずさりしたのです。チョコレートが怖くて触ってみることもできなかったのです。

そこで、私は息子に言いました。「お前が食べてみせなさい。」

ジョセフはチョコレートを自分の口に入れると、別の一片をさっきの少年に差し出しました。少年はチョコレートをじっと観察してから受け取りましたが、食べて良いものかと疑わしそうに眺めていました。やがて、まずほんのちよっぴり試しにかじると、さらにもう一口、最後に残り全部を口に放り込みました。生まれて初めてチョコレートを味わった少年は、顔中に笑みを浮かべ、うれしくて仕方ない様子でした。

それから残りの子供たち全員にチョコレート

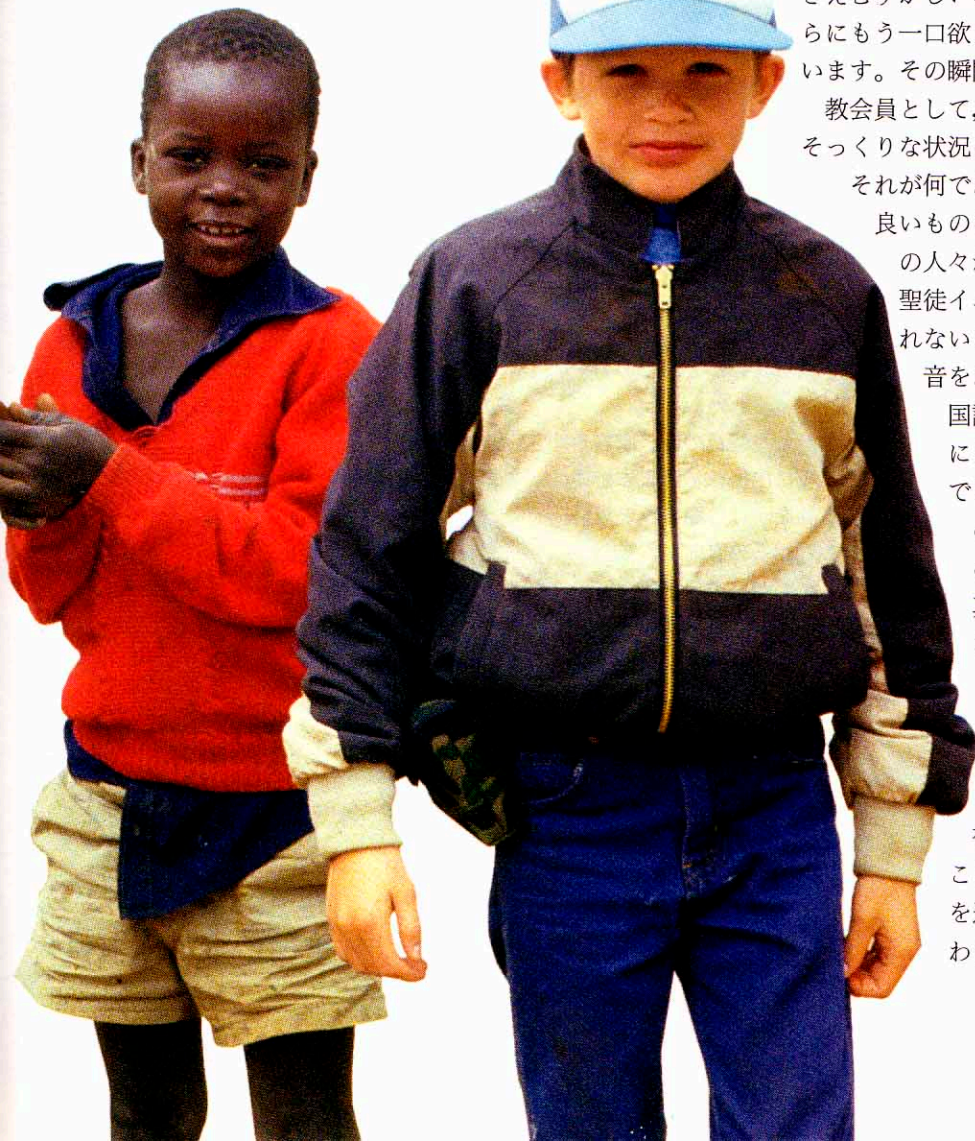
を分けてあげました。自分の仲間がおいしそうに食べるのを見た後は、だれひと



り怖がる子はいませんでした。そのチョコレートはすばらしいものだとわかったのです。

旅行も終わりにさしかかったころ、もう一度同じ村を

息子のジョセフは、原住民の子供たちにとって初めて見る白人の少年でした。



訪れました。するととたんに、前と同じ顔ぶれの子供たちが私たちの周りに集まってきました。何が欲しいのか、通訳を介さなくてもすぐにわかりました。すばらしくおいしいチョコレートがもっと欲しかったのです。

そのチョコレートの味は、イエス・キリストの福音の味にたとえることができましょう。福音はおいしくてすばらしく良い味がしますが、時として他の人々にはそれが理解できません。ほんのちょっとかじってもらうことさえむずかしいのです。しかし、もし一口かじれば、さらにもう一口欲しくなり、最後には全部口に入れてしまいます。その瞬間、驚くべき甘さが口に広がるのです。

教会員として、私たちは12歳の息子が置かれた立場とそっくりな状況に置かれています。私たちの周りには、それが何であるか理解はできなくとも、何かもっと良いものを求めている人が大勢います。この地上の人々が抱いているこのような祈願には、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員しかこたえられないと私は信じています。主は私たちに、福音をあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる世の人々に伝えるようにと命じられました。「あの人たちは理解できないかもしれない」などと言わず、その人たちを助けなければなりません。この世に福音ほど甘美なものはなく、また真理を知ることほど大きな祝福はほかにないはずで。

私たちの持っているすばらしい福音はチョコレートよりもずっと大切なものであり、永遠にわたり、私たち一人一人に影響を及ぼすものです。すでに福音を味わい、それが良いものだということを知っている私たちは、あらゆる機会を逃さず、他の人々も同じように福音を味わう助けをしなければなりません。□

「もし汝の姉妹 汝に害を与える時は」

ナイラ・W・ジュッド



ILLUSTRATED BY SCOTT GREER

扶助協会のクラスで、栄光の3つの段階について話し合っていたときのことです。ひとりの姉妹が星の栄光の王国について、いろいろと知識を披露しました。私はとっさに手を挙げると、その発言には疑問があることを指摘しました。以前別のクラスに出席していたときに同じレッスンを受け、その姉妹が言った特異な見解には裏付けとなる文書がなく、おそらく根拠がないであろうと教師が説明してくれたことを話しました。

ところが、発言しながら私はすでに気がとがめていました。発言の内容はともかく、なんと相手の気持ちを無視した、性急で礼儀に欠けた話し方を私はしてしまったのだろう。彼女の発表を正すことにだけ夢中になっていたのです。

扶助協会の後、私は彼女の近くにたたずんでいました。謝るべきであると促す声はずっと聞こえていました。でも私は、彼女とふたりだけになったところで、自分の気持ちをはっきり伝えたいと思ったのです。その日は終日、

どう切り出したら良いかと、その方法ばかりを考えていました。

こうしてついに月曜日の朝、家族が皆、仕事や学校に出掛けてしまった後、私は彼女に電話をかけて謝ろうと思いました。ところがその直前に、電話が鳴りました。私がかけようと思っていた姉妹です。彼女は、有意義な時間が持てたと前日のことでお礼を言ってきました。私はあっけにとられてしまいました。扶助協会で不愉快な思いをさせた私にどうして彼女がお礼を言うのでしょうか。しかし彼女は、あの後、問題の原則について勉強し直したと説明してくれました。新たな知識さえ学び、こちらの知らなかったことまで教えてくれました。

彼女を傷つけるつもりなど毛頭なかった私ですが、こちらの発言に腹を立てられても無理のない状況でした。ところが彼女はこの機会を自己の成長に役立て、しかもわざわざ電話をかけて、私に新しい知識までもたらしてくれました。

聖典をひもといてこの聖句に出会ったとき、私の心は喜びでいっぱいになりました。「もし汝の兄弟または姉妹汝に害を与える時は、兄弟姉妹と汝との間にて相会し、もし彼ら罪を告白せばこれを許して和げ……」（教義と聖約42：88）、「この故にわれ汝らに告ぐ、汝ら互いに赦し合うべきなり。そは、人その兄弟の過ちを赦さざれば、その人主の前に罪に値する故にして、そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。」（教義と聖約64：9）

あの日、彼女が与えてくれた教訓を私は生涯忘れることはないでしょう。彼女は私の模範です。□

*ナイラ・W・ジュッド：ユタ州ケイズビル第22ワード部所属。



「大工の仕事場で」テル・パーソン画

イエスの少年時代についてほとんど知られてはいないが、ルカは次のように記している。
「幼な子は、ますます成長して強くなり」、地上の両親であるヨセフとマリヤに「お仕えになった。」(ルカ 2 : 40, 51)
律法や聖典を学ぶと同時に、息子が父親の仕事の習うことは当時の習慣であった。
こうしてイエスは「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された。」(ルカ 2 : 52)



ベツレヘム



ヨルダン川



タホル山



園の墓

神の御子としての役割を担う主は、
その使命を果たすために、
この豊かな地球上のいかなる場所を
選ぶこともできた。
草木が青々とおい茂る
息をのむような美しい土地を
選ぶこともできた。

ところが主は荒涼とした
不毛の地を選び、聖地とされた。
すべてに勝利し主は再臨される。
(「この聖地にて」p.10参照)

個人の責任

アジア地域会長会第一副会長
W・ユージン・ハンセン

私 たちはこの地上に来て肉体を授かりましたが、それと同時に選択をする自由意志を与えられました。キンボール大管長はその著書「赦しの奇跡」の中で次のように説明しています。「主は天上の大会議で、この計画と、その条件と、伴う恵みについてはっきりと説明された。地球は単に人間が住むだけの所ではなく、学校であり試験場であり、自己を証明する機会を提供する場でもある。自分で選択することができるように、人には自由意志が与えられることになった。」（「赦しの奇跡」p. 8）

当然の結果として、自由意志と選択には責任が伴います。責任には様々な形や種類があります。たとえば、地域社会は住民に施行されている法律に従う義務を課しています。法律を破る人は、罰金を払ったり、刑務所に入られて社会生活から切り離されたりすることになります。

学校や大学は学生に履修課目を学習する義務を課しています。その義務を果たさない学生は進級をとどめられる、あるいは卒業証書を与えられないなどの措置を受けることになります。

会社では従業員はそれぞれの時間と労力を職場に提供する責任があり、もしその責任を果たさなければ解雇される、あるいは昇進ができなくなります。

私たちは皆、自分の選択と行動に対して主に責任があります。いつの日か「生命の書」が開かれ、自由意志をどのように行使してきたかが大きな意味を持つてくるのです。

上にあげた例の中には、責任を果たすために自分以外のだれかほかの人の手を借りなければならない場合があります。また、自分自身で責任を果たすべき場合もあることに注意しなくてはなりません。

ではここで、皆さんの行動や考えについて皆さん自身と主だけが知ってい

るというような状況について、いくつかの具体例をあげてみましょう。

1. 必要以上に長く眠る。
2. 自分自身ですべき仕事をほかの人にさせる。
3. 日曜学校や初等協会で教えるレッスンの準備を十分にしない。
4. 不健全で不適切な思いを抱く。
5. 物事に対して必要以上に時間をかける。
6. ほかの人に対して偽りの証言をする。
7. 援助を与える必要のある状況にありながら、意識的にそれをしない。
8. 配偶者や子供を含め、ほかの人の本当の気持ちや考えに対して理解を示さない。
9. 個人的な達成目標を立てない。
10. 悪い習慣を克服するために必要な努力をしない。
11. 時間を浪費する。
12. 常に自己改善をしようという努力をしない。
13. 霊性を高めるために毎日いくらかの時間を使わない。
14. 神殿推薦状を持っていながらでき

るだけ頻繁に神殿に参入しようとし
ない。

15. 自分の間違いや過失に対して責任を取ろうとしない。

このようなリストはいくらでも際限なく続けることができるでしょう。上述した状況にある人は成長が遅くなるか、あるいは止まってしまい、言い訳ばかりするようになります。

こうした事柄はささいなことのように聞こえるかもしれませんが、「小さな」事柄の重要性を忘れてはなりません。マッケイ大管長はかつて、悪天候や強風にもよく耐える森の巨木も、顕微鏡でしか見えないほど小さな虫に食い尽くされてしまうことがあると報告しました。

私たちが、すべての事柄において一層よく自らの責任を果たそうという望みを持ち、一段と個人的な成長を遂げることができますようにお祈りいたします。

七十人会長会ディーン・L・ラーセン長老は次のように報告しています。

「人は自らの責任を十分に果たすようになればなるほど、神に一層近づけることができる。それゆえ、人は成長しようと思うならば、必ず自己の責任を回避してはならない。」

これは主のみ業です。最後に私たちが皆さん一人一人を愛していることをお伝えしたいと思います。

悲劇の中から

ドナ・シン

韓 国を襲った洪水は150名の死者を出し、数千戸の家を破壊しました。新村は高台にあるため、私たちの生命と家財は無事でしたが、ソウルをはじめとする広範囲の地域が浸水の被害を受けました。船上のレストランなどは安全だと考えられていましたが、激流により漢江の downstream にまで押し流され、盤浦橋にぶつかって大破し、20人ができ死しました。そのほかにもあ

ちこちで地滑りが起き、死者を出しました。

水が引いた後、私たちは各地を回って、管轄地区の宣教師や会員たちの様子を調べました。どこへ行ってもハイウェイは寸断され、原州から太白山までの鉄道にかかっている橋の半分は流されてしまいました。鉄道線路は濁流が運んできた建物などの残骸に覆われ、ねじ曲がったり壊れたりして川の上へぶ

ら下がり、コンクリートの支柱は砕かれて、水中に沈んでいました。多くの教会員が大きな被害を受けた、私たちの伝道部の運転手と数人の宣教師は家から水をかき出さなければなりませんでした。

寧越^{ニソル}だけでも、10軒の家が屋根まで水につかり、そのうちの1軒は屋根が流されてしまいました。家財に受けた被害は修復できないほどひどいものですが、それでも人々は直そうと懸命でした。土砂で埋まった通りを歩いて行くと、あちこちで人々が汚れをどしどしとこすって洗い落としていました。泥まみれになった身の回りの品々が石やがれきに混じって通りを埋め尽くしていました。また、本や寝具、衣料が乾かすために少し高い所にずらりと並べてありました。私はまるでAFKN(アメリカ軍のテレビ放送局)のニュース映画の世界にでも入り込んだような気がしました。ひっきりなしにカメラを向ける私を人々は新聞記者と思ったに違いありません。

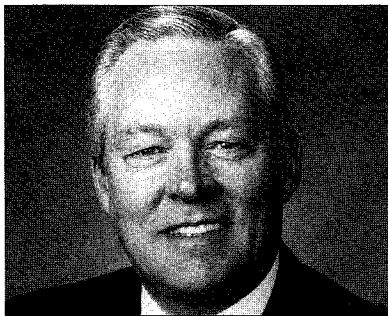
多くの被害を受け、周囲は混乱状態にあったにもかかわらず、私たちのファイヤサイド^{せいさん}と聖餐会は感動的なほど

静かで霊的なものでした。ひとりの紳士が次のような証を述べました。「私の娘が宣教師に会い、教会に興味を抱いたとき、私は反対しました。そして娘がバプテスマを受ける許可を求めたときには、もし教会に入るなら勘当すると言って拒否したのです。娘は家を出て、バプテスマを受けました。」

彼は最初怒りましたが、それまでは温かく親密な関係だったのに、娘が心地よい家を捨ててまで大切にしているものとは一体何だろうかと思惑に思いました。それで好奇心に駆られた父親は、一昨年私たちがこの地域を訪問して開いたファイヤサイドに出席しました。そして教会の教えに感動し、レッスンを受けました。しかしバプテスマの後でも、どうして自分が若い人たちがばかりの教会に入ったのか自分でもよくわからないと述べています。この世の財産のほとんどすべてを失った今、福音が真実であり、自らの信仰が本物であるかどうかについて、再び静かな確信を得たのです。私たちは互いに愛し合うゆえにキリストの真の弟子であるという彼の証は、単に人から聞いた話からではなく、自分自身の体験から

生まれたのです。

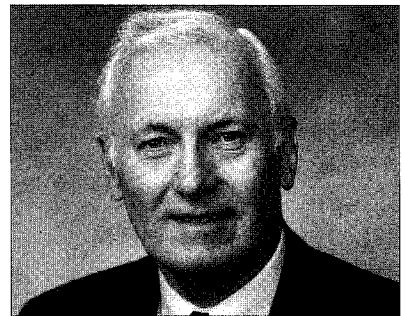
彼はさらに続けてこのように語りました。「洪水が起きて数時間もしないうちに、宣教師やそのほかの教会員が私の家へやって来ました。そして頼みもしないのに、すぐさま骨の折れる片付け作業を始めました。私のことを『教会員』だと言ってたびたび非難していたプロテスタントの隣人がひとりで四苦八苦している一方で、私は喜んで重荷を背負い合う本当の『兄弟姉妹』たちの助けを受けることができたのです。アメリカ人の姉妹たちが韓国人の人々と一緒になって、洗面器で水をかき出してくれている姿は忘れられない思い出となりましたが、また愛と一致の精神で、片付け、修理し、家の一部を建て直すことさえしてくれた彼らのことは生涯心に残ることでしょう。」こうして主は道を備え、主を信じ信頼する者にとっては悲劇の中からさえも良きものを得るように導かれるのです。改宗して1年になるこの教会員は、清掃用の青い制服姿で教会へ来て私たちの教えに耳を傾け、証を述べて私たちを祝福してくれたのです。



アール・C・ティンギー長老



ルロン・G・クレープン長老



W・マック・ローレンス長老

3人の新しい教会幹部 召される

大管長会は12月5日に3人の新しい教会幹部が召されたことを発表した。

下記の七十人第一定員会会員(1名)と七十人第二定員会会員(2名)は、

1991年1月1日付でそれぞれの職務に就いた。

七十人第一定員会会員——アール・C・ティンギー長老(56歳)。ユタ州バ

ウンテフル在住。

七十人第二定員会会員——ルロン・G・クレープン長老(66歳)。ユタ州センタービル在住。

七十人第二定員会会員——W・マック・ローレンス長老(64歳)。ユタ州ホラデー在住。

アール・C・ティンギー長老は、世界有数の採鉱会社ケネコットの法律顧問。おもにニューヨークで25年以上会社の顧問弁護士を務め、11年前に故郷ユタ州へ戻った。

1934年6月11日バウンテフルで生まれ、ユタ大学の法律大学院を卒業し、後にニューヨーク大学で会社法の修士号を取得した。アメリカ合衆国陸軍法務部隊に3年間務め、陸軍大尉となる。

ティンギー長老は、ネバダ州ロガンデール出身のジョアン・ウェルズ姉妹と結婚し、4人の子供と8人の孫に恵まれている。

ティンギー長老は、次のような教会の責任を果たしてきた。ユタ州オグデン伝道部副伝道部長(1988—90)、ユタ州北伝道部副伝道部長(4年間)、オー

ストラリア東伝道部(現在オーストラリア・シドニー伝道部)伝道部長(1973—76)、地区代表(7年間)、ニューヨーク州マンハッタンワード部監督、合衆国東部伝道部副伝道部長。

ルロン・G・クレーブンは過去13年間十二使徒定員会の書記を務めてきた。それ以前はユタ州プロボのブリガム・ヤング大学で事務次長の任にあった。

クレーブンは1924年11月11日にユタ州マーレイで生まれ、ブリガム・ヤング大学で修士号を取得した。ドン・ラント姉妹と結婚し、6人の子供と14人の孫に恵まれている。

クレーブンは生涯教会のために奉仕し、以下のような召しを歴任している。ニュージーランド北伝道部(現在ニュージーランド・オークランド伝道部)伝道部長(1967—70)、地区代表、日曜学校中央管理会会員、プロボにお

けるステーキ部長会の一員および監督、そのほか教会補助組織の指導者および教師。

W・マック・ローレンス長老は、39年間務めた合衆国ウエスト・コミュニケーションズ電話会社を今年退職。副社長の地位にあった。

ローレンス長老は1926年10月28日、ソルトレークシティで生まれ、ユタ大学で経営学の学士号を取得し、1950年に卒業した。カリフォルニア州ロサンゼルス出身のジャックリン・ヤング姉妹と結婚し、息子ひとりと娘ふたり、孫10人に恵まれている。

ローレンス長老はソルトレーク、マウントオリンパスステーキ部の高等評議員を務めていた。それ以前は、地区代表(1982—88)、マウントオリンパスステーキ部副ステーキ部長、ホラデー第16ワード部の監督などを歴任している。

教会の援助に感謝する 西サモア首相

西サモア首相はソルトレークシティを訪問の際、教会幹部および教会員に、今年(1990年)初頭ハリケーンの余波による被害を受けたサモア諸島に、教会が援助物資を送ったことに対して感謝の意を表明した。

10月5日、第二副管長トーマス・S・モンソン長老の主催する昼食会の席で、トフィラウ・E・アレサナ首相は、今年2月にハリケーンのおファ号が襲来し、西サモアの村々および南太平洋上の島々が広範囲にわたる被害を受けたとき、教会がサモア諸島に送った食料などの援助物資について次のように語った。

「教会および教会員の方々は私たちサモア国民が困っているとき、大変親切にしてくださいました。本当に教会は長年、いろいろとサモア国民の福祉のために大きく貢献してくださっています。」

昼食会の出席者は以下のとおりであ

る。第一副管長ゴードン・B・ヒンクレー長老夫妻、十二使徒定員会会員ジェームズ・E・ファウスト長老夫妻、ラッセル・M・ネルソン長老夫妻、リチャード・G・スコット長老夫妻、七十人定員会会員で元太平洋地域会長のグレン・L・ラッド長老夫妻、現太平洋地域会長ダグラス・J・マーティン長老夫妻、同副会長ベンジャミン・B・パンクス長老夫妻、ならびに市議会議員、郡および州政府役員。なお、首相に同行したのはピトゥラ・アレサナ首相夫人、西サモア外務省書記長マイアバ・T・イウロイ氏、および法律顧問アンドレア・ウィリアムズ氏である。

教会管理本部26階で開かれた昼食会の席で、アレサナ首相は教会との長年にわたる交際について次のように語った。「教会は西サモアでは重要な存在です。私は多くの教会員と個人的に親しくお付き合いしてきました。教会に



教会管理本部で開かれた昼食会の席で、西サモアのトフィラウ・E・アレサナ首相より贈られた伝統的な雄弁家の杖とハエ追いを披露するトーマス・S・モンソン副管長。

ついてサモア人に紹介してくれた宣教師の方々も存じております。また、スペンサー・W・キンボール大管長やモンソン副管長にもお目にかかり、非常に強く鼓舞されてきました。」首相は教会の宣教師を称賛し、彼らを「教会の価値観を世界の隅々にまで伝える特別な会員たち」と呼んだ。

昼食会の司会役を務めたモンソン副管長は、教会を代表して首相夫妻に贈り物を進呈した。そのひとつは、末日聖徒の彫刻家デニス・スミスの作品で、両親に手を引かれて歩き始める子供の姿を描いた「最初の1歩」と題する彫刻であり、もうひとつはクリスタルガ

新役員の任命

1990年11月23日から1990年12月6日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

- 沖縄那覇ステークス部名護支部
新支部長：落合茂樹
(前任者：玉城真光)
- 大阪ステークス部枚方ワード部
新監督：中尾信一郎
(前任者：長濱俊生)
- 新潟地方部三条支部
新支部長：Alden Richardson
(前任者：前田祐一)

編集室から

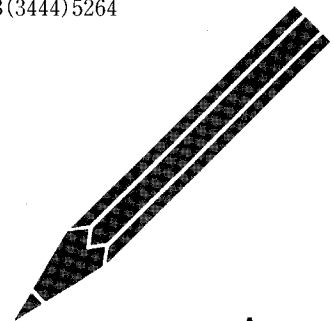
皆さんの原稿を募集しています

▶ ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)、本誌を読まれての感想文などをお送りください。

▶ 1991年4月号掲載分の締切は1月25日です。なお、投稿の際、必ず連絡先(電話番号)と教会での責任(役職名)を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また、掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶ あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室

☎03(3444)5264



ラス製のはちみつ皿である。

首相はヒンクレー副管長に、特別な儀式で使われる伝統的なカワカワ製の大きな鉢を贈った。その鉢は教会歴史美術館に展示されることになった。また首相はモンソン副管長が、1988年にサモア諸島伝道100周年記念祭に西サモアを訪問したことに言及しながら、モンソン副管長との際際について語った。当時、首相夫妻はモンソン副管長をはじめとする教会幹部のために非公式な夕食会を催した。

首相はモンソン副管長が雄弁家で知られていることから、サモアの雄弁家の杖、「トートー」と、やしの皮からとった繊維で作った「フェエ」と呼ばれるハエ追いを贈った。杖とハエ追いはサモアでは高い身分を象徴するものである。

首相一行は、10月3日ソルトレークシティに到着し、10月4日ブリガム・ヤング大学を訪問。デビッド・M・ケネディセンター国際部での昼食会に出

席した。センターでは西サモア出身の学生約40名が島の伝統的な慣習に従い首相にあいさつを述べた。首相一行はその後、大学構内を見学した。

10月4日の夕方、首相一行はソルトレーク・シュガーハウスステークス部サモア人ワード部主催の夕食会および文化交流会に出席した。その後、テンブルスクウェアを訪問し、タバナクル合唱団が毎週木曜日に行なっている練習を見学した。(「チャーチニュース」1990年10月20日付)



ソルトレーク・シュガーハウスステークス部サモア人ワード部の会員主催の集會に招かれたトフィラウ・E・アレサナ首相。

ローカルニュース

1990年度プライマリー・カブラリー

1990年10月10日、東京の日比谷公園において、毎年恒例の地域スカウト協議会主催のプライマリー・カブラリーが開催された。東京都と厚生省主催の'90健康フェスティバルとも重なり、日比谷公園はとてにぎわっていた。曇っていた空もさわやかな秋晴れに変



わり、子供たちは各ポイントを探し出しながら、ウォークラリープログラムを楽しみ、宝探しや暗号解読、じゃんけんゲーム、風船取り、測量ゲーム、メンコ返しなど、楽しく元気いっぱいに参加していた。今年は約150名の参加者があり、緑豊かな自然の中で子供たちの伸び伸びした姿が印象的であった。地域スカウト協議会では来年度も10月10日にこのラリーを開催する予定であり、より多くの参加者を期待している。(レポーター：山新田福子、横浜ステークス部初等協会会長)